

高崎市文化財調査報告書 第417集

元島名中子遺跡

-高崎市元島名町地内における荷捌き所及び事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-

2018

高崎市教育委員会
株式会社ノガミ

高崎市文化財調査報告書 第417集

元島名中子遺跡

-高崎市元島名町地内における荷捌き所及び事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-




2018

高崎市教育委員会
株式会社ノガミ

例 言

1. 本書は荷捌き所及び事務所建設に伴う元島名中子遺跡（高崎市遺跡番号741）の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は群馬県高崎市元島名町字中子1229番、1230番、1231番、1232番1・2・3・4、1235番1・2、1236番1・2・3・4・5・6、1237番1・2・3、1238番1・2、1239番1、1240番1、1241番1、1242番1、1243番1・3、1244番1、1245番1に所在する。
3. 発掘調査は平成30年4月2日から平成30年5月31日まで実施した。
4. 発掘調査及び整理調査・報告書作成は、高崎市教育委員会の管理下、新潟運輸株式会社と委託契約を締結した株式会社ノガミが実施した。
5. 発掘調査の体制は下記の通りである。
高崎市教育委員会 矢島浩（監督員）
株式会社ノガミ 秋山真好（主任調査員）、高尾将矢（調査員）、高野恒一（計測員）
本書の編集は秋山が、執筆はⅠを高崎市教育委員会文化財保護課が、Ⅲ・Ⅴを高尾が、他を秋山が行った。
6. 本書に関わる図面・写真・遺物は、高崎市教育委員会で保管している。
7. 発掘作業に携わった方々は以下の通りである。（敬称略・五十音順）
発掘作業 青木美好・浅田佐代子・新井政行・池田潤子・大平輝義・笠原進二・小林久重・高橋均・田口清・根岸裕樹・野口知紘・町田剛・武藤豊子・山田進・吉田知栄美
整理作業 飯塚恵津子・對馬むつみ・村山彩子
8. 発掘調査の実施及び報告書の刊行に至る過程で、下記の諸機関のご協力を賜った。
記して感謝申し上げます。（敬称略）
株式会社丸運建設、RACRO合同会社

凡 例

1. 本書掲載の「第1図 調査区位置図」は『都市計画基本図』（高崎市発行1/2,500）を、「第2図 本遺跡の位置と周辺の遺跡」は『前橋』、『高崎』（国土地理院発行1/25,000）地形図をそれぞれ使用した。
2. 遺跡挿図の座標については、世界測地系（測地成果2011）を使用し、図中に示した北は座標北である。
3. 挿図の縮尺は図中の以下の通りである。挿図中にはスケールを入れ表示した。
遺構 全体図1/500、平面図1/40、断面図1/40
遺物 1/1、1/3、1/4
4. 挿図内のスクリーントーンが示す内容は、以下の通りである。
赤彩  須恵質土器（断面）  灰釉 
5. 土層及び遺物の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 2015）による。
6. 基本土層の堆積層にローマ数字を、遺構覆土層には算用数字を付した。

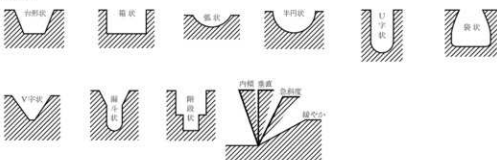
7. 基本土層及び遺構覆土層の土層注記は、以下の書式で記載した。
 土色 しまり・粘性・混入物
 「しまり」及び「粘性」は強い→やや強い→やや弱い→弱い→なし、混入物については多量→中量→少量→微量の順で度合いを表記した。
8. 本書における火山噴出物（テフラ）の表記は略号を用いた。天明3年（1783）の浅間噴火による下降テフラをAs-A、天仁元年（1108）の浅間噴火による下降テフラをAs-Bと表記した。
9. 遺構標示の記号は、SB＝掘立柱建物跡、SD＝溝跡、SK＝土坑、SP＝ピットである。
10. 観察・一覧表の数値に付けられた（ ）は遺存する現状値、[]は推定値をそれぞれ示し、単位はcmである。
11. 遺構の平面形状及び断面形状は、以下を参考とした。

平面



平面	
円形	長径が短径の1.2倍未満のもの。
楕円形	長径が短径の1.2倍以上1.5倍未満のもの。
長楕円形	長径が短径の1.5倍以上のもの。
方形	長軸が短軸の1.2倍未満のもの。
長方形	長軸が短軸の1.2倍以上のもの。
不整形	凸凹で一定の平面形を持たないもの。ただし、おおよその形状がわかるものは、不整形円形、不整形楕円形、不整形長円形、不整形長方形、不整形方形と呼ぶこともある。

断面



断面	
台形状	底部に平坦面を持ち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面を持たない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
平円状	底部に平坦面を持たない輪状で、急斜度で立ち上がるもの。
袋状	確認面の径よりも底部の径が大きく、内傾した後に垂直ないしは外傾して立ち上がるもの。
階段状	階段状の立ち上がりを持つもの。広い中段（テラス）を持つものを含める。
U字状	確認面の長径よりも深さの径が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
V字状	点的な底部を持ち、急斜度で立ち上がるもの。

目 次

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

I. 調査に至る経緯	1
II. 調査の方法と経過	2
III. 遺跡の立地と周辺の遺跡	3
IV. 基本層序	7
V. 検出された遺構と遺物	9
1. 掘立柱建物跡	9
2. 溝跡	10
3. 土坑	14
4. ビット	21
5. 遺構外出土遺物	24
VI. まとめ	28

写真図版
抄録
奥付

挿図目次

第1図 調査区位置図	1	第11図 土坑(3)	17
第2図 本遺跡の位置と周辺の遺跡	3	第12図 土坑内出土遺物(1)	18
第3図 基本層序	7	第13図 土坑内出土遺物(2)	19
第4図 全体図	8	第14図 ビット	22
第5図 掘立柱建物跡	9	第15図 ビット内出土遺物	23
第6図 溝跡(1)	11	第16図 遺構外出土遺物(1)	24
第7図 溝跡(2)	12	第17図 遺構外出土遺物(2)	25
第8図 溝跡内出土遺物	13	第18図 大河内家文書 榎屋敷絵図	28
第9図 土坑(1)	15	第19図 元島名城推定図	29
第10図 土坑(2)	16	第20図 群馬縣上野西群馬萩原村 迅速測図	30

表目次

第1表 周辺遺跡一覧表(1)	5	第5表 ビット内出土遺物観察表	23
第2表 周辺遺跡一覧表(2)	6	第6表 遺構外出土遺物観察表	25
第3表 溝跡内出土遺物観察表	13	第7表 遺構一覧表(1)	26
第4表 土坑内出土遺物観察表	20	第8表 遺構一覧表(2)	27

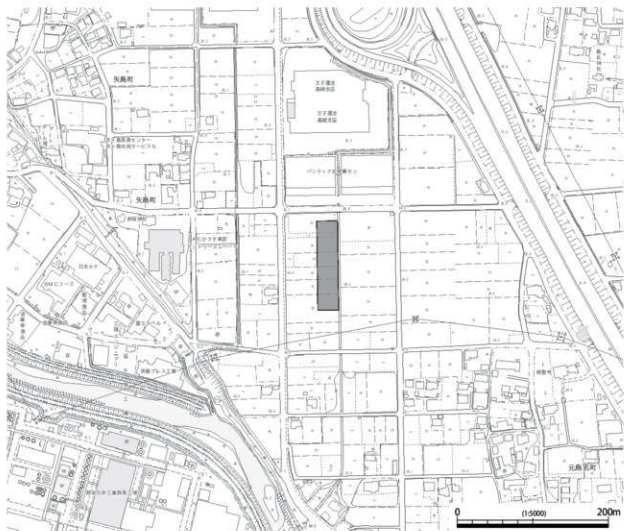
写真図版目次

- 図版 1 調査区全景
- 図版 2 調査区全景、1974年撮影 本遺跡周辺空中写真、1986年撮影 本遺跡周辺空中写真
- 図版 3 1号掘立柱建物跡完掘、1号ピット断面、2号ピット断面、14号ピット断面、15号ピット断面
- 図版 4 1号溝跡・7号ピット断面、2号溝跡断面、3号溝跡断面、4号溝跡断面、5号溝跡断面、6号溝跡断面、7号溝跡断面、7・9号溝跡完掘
- 図版 5 8号溝跡断面、8号溝跡完掘、9号溝跡断面、5号土坑石出土状況1、5号土坑石出土状況2、5号土坑石出土状況3、5号土坑断面、5号土坑完掘
- 図版 6 8号土坑断面、8号土坑完掘、11号土坑断面、11号土坑完掘、13号土坑断面、13号土坑完掘、14号土坑石出土状況、14号土坑完掘
- 図版 7 15号土坑断面・遺物出土状況、15号土坑永楽通寶出土状況、15号土坑骨出土状況、15号土坑完掘、20号土坑断面、20号土坑完掘、21号土坑断面、21号土坑完掘
- 図版 8 21号土坑木器出土状況、21号土坑木器出土状況、22号土坑断面、22号土坑完掘、3号ピット断面、3号ピット完掘、8号ピット断面、8号ピット完掘
- 図版 9 33号ピット断面、33号ピット完掘、72号ピット石出土状況、75号ピット石出土状況、82号ピット石出土状況、83号ピット石出土状況、95号ピット断面、100号ピット柱根出土状況
- 図版 10 SD5出土遺物、SD7出土遺物、SK3出土遺物、SK5出土遺物、SK15出土遺物
- 図版 11 SK20出土遺物、SK21出土遺物、SP3出土遺物、SP22出土遺物、SP45出土遺物
- 図版 12 遺構外出土遺物

I. 調査に至る経緯

平成 29 年 9 月新潟運輸株式会社から、高崎市元島名町において計画している荷捌き所および事務所建設に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である元島名遺跡および元島名城に隣接し、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。開発計画が具体化した同年 9 月 8 日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書と文化財保護法に基づく届出が提出され、同年 11 月 6 日、7 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、中世の土坑、溝、ピット群等の遺構が検出され、埋蔵文化財の所在が明らかになった。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「元島名中子遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成 30 年 3 月 30 日に新潟運輸株式会社と民間調査機関株式会社ノガミ群馬営業所との間で契約を締結、また同日に新潟運輸株式会社・株式会社ノガミ群馬営業所・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。



第1図 調査区位置図

II. 調査の方法と経過

調査の方法

今回の調査対象は、開発面積 25,082 m²に対し 3,176 m²である。遺構確認面の検出は試掘調査の成果に基づき、重機により地表面からVI層上面まで掘り下げた。遺構確認作業はジョレン等の道具を用いて人力で行った。検出された遺構は、規模や平面形状等を考慮し土層観察用のベルトを設定した。遺構の掘削は遺構覆土の堆積状況や遺物の出土状況に留意して行った。遺構の記録は土層断面及び完掘状況の写真撮影と手測りによる土層断面図、光波測距儀を用いた平面図である。写真撮影は 35 mm 一眼レフカメラを用いてモノクロームネガフィルムとカラーリバーサルフィルムの2種類を使用し、デジタル一眼レフカメラも併用した。遺構全体図は 1/150、遺構平面図及び断面図は 1/20 で作成を行った。調査区全景写真は、ラジコンヘリコプターを用いて撮影した。

遺物の取り上げは、出土状態の良いものについて座標値と標高値を記録し番号を付し、小片等の遺物は各遺構の覆土出土として一括で取り上げた。また、SK5は礫が多量に出土しており、出土状況を上層と下層に分割して記録した。

調査の経過

発掘調査は平成 30 年 4 月 2 日から平成 30 年 5 月 31 日まで行った。以下に調査経過の概略を記載する。

- 4 月 2 日 調査区設定及び調査前風景写真撮影。
- 4 月 6 日 プレハブ及び仮設トイレ設置。
- 4 月 10 日 発掘器材搬入。
- 4 月 12 日 重機搬入。調査区南側より表土掘削開始。
- 4 月 16 日 作業員雇用開始。調査区南側より遺構確認作業開始。
- 4 月 17 日 調査区南側より遺構（溝・土坑・ピット）を検出し調査開始。（～5月2日）
- 5 月 2 日 重機による表土掘削完了。重機搬出。調査区中央より遺構（溝・土坑・ピット）を検出し調査。（～16日）
- 5 月 17 日 調査区北側より遺構（溝・土坑・ピット）を検出し調査開始。
- 5 月 29 日 ラジコンヘリコプターを用いて空中撮影。高崎市教育委員会監督員による完了確認。
- 5 月 30 日 調査区北側及び南側に土層確認のため深堀。
- 5 月 31 日 現場後片付け及び器材撤収。作業員雇用終了。

Ⅲ．遺跡の立地と周辺の遺跡

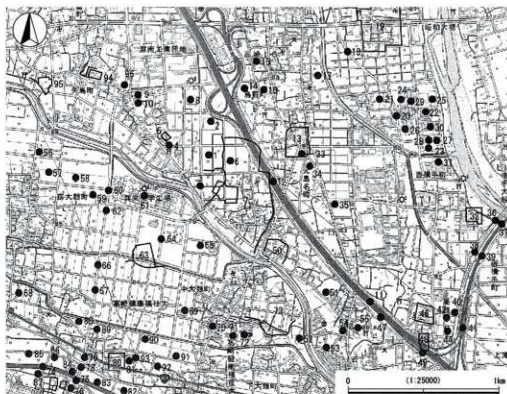
1 遺跡の位置と環境

本遺跡は、高崎駅から直線距離にして約4.2kmの市城南東部の元島名町に所在し、西部の井野川と東部の利根川の間の前橋台地に位置する。この台地は、約24,000年前に浅間山を構成する黒斑山の大規模噴火に伴う山体崩落により発生した前橋泥流による火山泥流堆積物と、それを被覆するローム層から形成される。前橋台地は北西から南東方向へゆるく傾斜し、台地上は、榛名山を水源とする河川によって開折され幅広い微高地と後背湿地を形成している、また現在、井野川が流れている所は、旧利根川の河道とされ、前橋台地の西端はこの旧利根川と井野川によって削られ、河岸段丘を形成している。

2 周辺遺跡

縄文時代

本遺跡周辺の縄文時代の遺跡は少ないが、井野川の西岸では、天神遺跡(59)で前期集落、高崎情報団地Ⅱ遺跡(65)で中期集落が確認されている。前橋台地上では、縄文時代の明確な遺跡は確認されていないが、元島名遺跡(3)で土坑から後期の深鉢が出土している。また、元島名瓦井遺跡(8)では草創期の尖頭器、元島名B遺跡(12)、上滝榎町北遺跡「北関東道」(41)、上滝遺跡(47)で縄文土器片が発見されており、散布地が広範囲に分布することから、小規模ながら集落が存在していた可能性を示唆している。



第2図 本遺跡の位置と周辺の遺跡

弥生時代

弥生時代も前時代と同様に周辺の遺跡の確認例は少ないが、井野川の西岸では、高崎情報団地遺跡(64)で後期集落や方形周溝墓、万相寺遺跡(61)で後期集落、南大類東沖遺跡(66)で方形周溝墓が確認されている。前橋台地上では、矢島町薬師遺跡(9)で後期集落、鈴ノ宮遺跡(4)、元島名遺跡で集落や方形周溝墓が確認されており、弥生時代後期になると集落や墓域が形成され始めた様相が窺える。

古墳時代

古墳時代になると遺跡数が急激に増加する。前期では、高崎情報団地遺跡、南大類稲荷遺跡(67)で集落が形成され、県内最古の古墳の一つである全長90mの前方後方墳である元島名將軍塚古墳(55)が築造された。古墳時代中期の明確な集落は認められないが、古墳時代後期になると、鈴ノ宮遺跡、矢島町薬師遺跡、元島名遺跡、元島下河原遺跡(53)で集落が形成された。また、6世紀初頭と中頃に降下したHr-FAとHr-FPテフラ及びそれに伴う洪水層下の水田が、島野村西遺跡(16)、荻原沖中遺跡(20～26)、西横手遺跡群(29・30)、元島名諏訪北遺跡(34)、島野中町遺跡(35)などで確認されている。

古代

古代では、鈴ノ宮遺跡、元島名下河原遺跡、上滝榎町北遺跡(40・41)、上滝遺跡などで集落が調査され、元島名瓦井遺跡、元島名中子遺跡(2)、元島名遺跡など井野川東岸の諸遺跡、荻原沖中遺跡、西横手遺跡群(36・37)など利根川西岸の諸遺跡で天仁元年(1108)に降下したAs-Bテフラで埋没した水田が調査されている。

中世

中世には、本遺跡北西に鈴ノ宮屋敷(5)、南東には元島名城(7)が存在し、東は桜屋敷(6)に隣接する。元島名城の西側では小規模な堀、多数のピットが検出されていて、堀の中からは延慶2年(1309)の銘がある板碑が出土していることから城に先立つ屋敷があったと考えられる。桜屋敷もまた元島名城に先立つ屋敷とされ応永年間(1394～1427)に島名伊豆守が築いた可能性が指摘されている。現在知られている元島名城は、永禄の頃、長井政実が永禄十三年(1570)に居城し改修された以降の形であるが、現在では住宅地となりその姿は確認できない。また周辺には他にも島野環濠遺跡群(13)、塚ノ越屋敷(63)、元島名内出(50)などの屋敷跡が確認できる。

近世

近世の遺構としては、天明3年(1783)の浅間山の噴火により、降り積もったAs-Aテフラを地中に埋めて処理した復旧痕が荻原沖中遺跡、宿横手三波川遺跡(39)、南大類村南遺跡(68)、中大類沖田遺跡(69)で確認されている。また、As-Aテフラによって埋没した水田が宿横手三波川遺跡、上滝榎町北遺跡、上滝五反畑遺跡(45)で調査されている。

第1表 周辺遺跡一覧表(1)

No.	遺跡名	遺蹟内容	文献
1	本遺跡 (元島名中子遺跡)	本文参照	本報告書
2	元島名中子遺跡	古代: B 下木田	1999『高岡市内遺跡群縄文文化財緊急発掘報告書13』高岡市教育委員会
3	元島名遺跡	縄文: 後期上段 弥生: 前期, 方形埴輪墓 古墳: 円形埴輪墓。 遺物: 後期弥生代: 土器(由下木田小)	1979『元島名遺跡』高岡市教育委員会
4	路ノ宮遺跡	弥生: 前期, 方形埴輪墓, 横形墓 古墳: 前期・後期埴輪墓, 方形埴輪墓, 古墳 土器: 土器	1978『路ノ宮遺跡』高岡市教育委員会
5	路ノ宮周敷	中世: 瓦葺墓	1978『路ノ宮遺跡』高岡市教育委員会 1996『新編高岡市史 資料編3 中世1』高岡市史編さん委員会
6	坂間敷	中世: 瓦葺墓	1979『元島名遺跡』高岡市教育委員会 1996『新編高岡市史 資料編3 中世1』高岡市史編さん委員会
7	元島名城	中世: 復原図参照	1979『元島名遺跡』高岡市教育委員会 1996『新編高岡市史 資料編3 中世1』高岡市史編さん委員会
8	元島名五井遺跡	縄文: 前期後 弥生: 前期後 古代: B 下木田 近世: 遺構	1995『元島名五井遺跡』高岡市遺跡調査会 1995『高岡市遺跡群縄文文化財緊急発掘報告書』高岡市教育委員会
9	矢島町栗原遺跡	弥生: 後期前期 古墳: 後期前期, 前期円形埴輪墓 平安〜中世: ビット群 土器: 埴輪器, 土器, 土器, ビット群	1994『矢島町栗原遺跡』高岡市教育委員会
10	藤原山古墳	古墳: 円形	1994『矢島町栗原遺跡』高岡市教育委員会 1999『新編高岡市史 資料編3 中世1』高岡市史編さん委員会
11	元島名A遺跡	古代: B 下木田小	1991『八幡町A・B 上段 元島名A』(財)野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
12	元島名B遺跡	縄文: 前期後 弥生: 前期後 古墳: 前期後 古代: 前期後 中世: 古墳, 土器, 土器(元島名城下の北)	1996『新編高岡市史 資料編3 中世1』高岡市史編さん委員会
13	高野磯邊遺跡	中世: 遺構	1996『新編高岡市史 資料編3 中世1』高岡市史編さん委員会
14	高野四辻遺跡	古代: B 下木田	2000『高岡市内遺跡群縄文文化財緊急発掘報告書』高岡市教育委員会
15	高野神宮遺跡	古代: B 下木田	1992『高岡市内遺跡群縄文文化財緊急発掘報告書』高岡市教育委員会
16	高野村西遺跡	古墳: FA 下木田 古代: B 下木田	2000『高岡市内遺跡群縄文文化財緊急発掘報告書14』高岡市教育委員会
17	高野村東遺跡	古代: B 下木田	1988『高野村東遺跡』高岡市教育委員会
18	新原八幡町遺跡	古墳: FA 下木田	2003『高岡市内遺跡群縄文文化財緊急発掘報告書17』高岡市教育委員会
19	中世・後期造	中世・後期造	1996『新編高岡市史 資料編3 中世1』高岡市史編さん委員会
20	新原沖中遺跡	古墳: FA 高木野下木田, FP 高木野下木田 古代: B 下木田 中・近世: 遺, ビット, A 榎形土器類	2005『新原沖中遺跡』高岡市教育委員会
21	新原沖中遺跡B	古墳: FA 下木田, FP 下木田 古代: B 下木田 近世: 遺	2005『新原沖中遺跡』高岡市教育委員会
22	新原沖中遺跡C	古墳: 前期上段, ビット, 遺, FA 高木野下木田, FP 高木野下木田 古代: B 下木田	2009『新原沖中遺跡』高岡市教育委員会
23	新原沖中遺跡D	古墳: FA 高木野下木田, FP 高木野下木田 古代: B 下木田	2009『新原沖中遺跡』高岡市教育委員会
24	新原・沖中遺跡6	古墳: FA 高木野下木田, FP 高木野下木田 古代: B 下木田	2009『新原沖中遺跡』高岡市教育委員会
25	新原・沖中遺跡7	古墳: 前期上段 古墳: FA 高木野下木田, FP 高木野下木田 古代: B 下木田 中・近世: 土器	2013『新原・沖中遺跡7 西側中・西丸遺跡』(財)野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
26	新原・沖中遺跡8	古墳: 前期中期土器類, FA 高木野下木田 古代: B 下木田 中・近世: 遺, 土器	2012『新原・沖中遺跡8』高岡市教育委員会
27	西磯平・西丸遺跡4	古墳: FA 高木野下木田 近世: 遺	2013『新原・沖中遺跡7 西側中・西丸遺跡4 西磯平西丸遺跡』(財)野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
28	西磯平・西丸遺跡5	古墳: FP 高木野下木田 古代: B 下木田 中世前: 土器	2013『新原・沖中遺跡7 西側中・西丸遺跡5 西磯平西丸遺跡』(財)野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
29	西磯平遺跡群(Ⅰ)	古墳: 前期, FA 下木田	1990『西磯平遺跡群(Ⅰ)』高岡市教育委員会
30	西磯平遺跡群(Ⅱ)	古墳: 前期中期後, FA 下木田 古代: B 下木田	1999『西磯平遺跡群(Ⅱ)』高岡市教育委員会
31	西磯平遺跡群(Ⅲ)	古代: B 下木田 中世: 前期遺構 近世: 遺物群	2009『西磯平遺跡群(Ⅲ)』高岡市教育委員会
32	新野原敷	中世: 瓦葺墓	1996『新編高岡市史 資料編3 中世1』高岡市史編さん委員会
33	新9-22 元島名町 (新敷)	古代: B 下木田	2008『平成19年度元島名町発掘調査報告書』高岡市教育委員会
34	元島名御前屯遺跡	古墳: 前期後, FA 下木田小 古代: B 下木田	1992『高岡市内遺跡群縄文文化財緊急発掘報告書外巻』高岡市教育委員会
35	高野十町遺跡	古墳: FA 下木田 古代: B 下木田	1992『高岡市内遺跡群縄文文化財緊急発掘報告書』高岡市教育委員会
36	西磯平遺跡群 (古敷)	古墳: C 段上野上木田, FA 下木田, FP 高木野下木田 古代: B 下木田 中世: B 段上木田 近世: 土器類	2003『新野平三田川遺跡 西磯平遺跡群(Ⅰ)』野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
37	西磯平遺跡群 (北側東遺)	古墳: 前期後, 前期 古墳: FA 下木田, FP 下木田 古代: 埴輪, B 下木田 中世: 瓦葺, 土器, 土器 近世: 土器類, 土器類, 遺	2001『西磯平遺跡群(Ⅱ)』野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
38	新野平三田川遺跡 (北側南遺)	古墳: C 段上野上木田, FA 下木田, FP 高木野下木田 古代: B 下木田 中世: B 段上木田 近世: 土器類, 土器類	2003『新野平三田川遺跡 西磯平遺跡群(Ⅱ)』野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
39	新野平三田川遺跡 (北側東遺)	古墳: 前期後, C 段上野上木田, C 段上野上木田, FA 下木田, FP 下木田 古代: 遺, 木器, B 下木田 中世: B 段上野上木田, 埴輪器, 高木野下木田, 中・近世遺構 近世: 高木野下木田, A 後期遺構, 土器類, A 段上野上木田	2001『新野平三田川遺跡(Ⅰ)』野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
40	上磯塚町北遺跡 (北側東遺)	古墳: 前期後, C 段上野上木田, C 段上野上木田, FA 下木田, FP 下木田 古代: 遺, 木器, B 下木田, B 下木田 中世: 埴輪 近世: A 下木田	2002『上磯塚町北遺跡(Ⅰ)』野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
41	上磯塚町北遺跡 (北側東遺)	古墳: 前期後, C 段上野上木田, C 段上野上木田, FA 下木田 古代: B 下木田 中・近世: 土器類, 埴輪器 近世: A 下木田	2002『上磯塚町北遺跡(Ⅱ)』野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
42	上磯塚町北遺跡	古墳: FA 下木田, FP 高木野下木田 古代: B 下木田 遺, 中世: 埴輪器, 遺	2007『上磯塚町北遺跡』高岡市遺跡調査会
43	上磯塚町北遺跡	古墳: FA 下木田 古代: B 下木田 中世: 遺 近世: 遺	2004『上磯塚町北遺跡』野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
44	新9-21 上磯	古墳: FA 下木田 古代: 前期後(前期後期)小, B 下木田	2008『平成19年度元島名町発掘調査報告書』高岡市教育委員会
45	元島名互代遺跡	古墳: FA 高木野下木田 古代: B 下木田 近世: A 下木田	1999『元島名互代遺跡』野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
46	江戸原敷	中世: 瓦葺墓参照, 塚, 土葬	1996『新編高岡市史 資料編3 中世1』高岡市史編さん委員会
47	上磯遺跡	縄文: 前期後 古墳: 前期中期後, 遺, 埴輪器 古代: 埴輪 中世: 埴輪	1991『八幡町A・B 上段 元島名A』(財)野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
48	上磯周敷	中世: 埴輪器参照	1991『新編高岡市史 資料編3 中世1』高岡市史編さん委員会
49	上磯互代遺跡	古墳: FA 下木田, FP 下木田 古代: 遺, 中世: 遺, 近世: 埴輪, 埴輪, 埴輪	2002『上磯塚町北遺跡・上磯互代遺跡』(財)野呂高岡縄文文化財緊急発掘事業団
50	元島名内出	中世: 瓦葺墓参照, 塚, 土葬	1996『新編高岡市史 資料編3 中世1』高岡市史編さん委員会

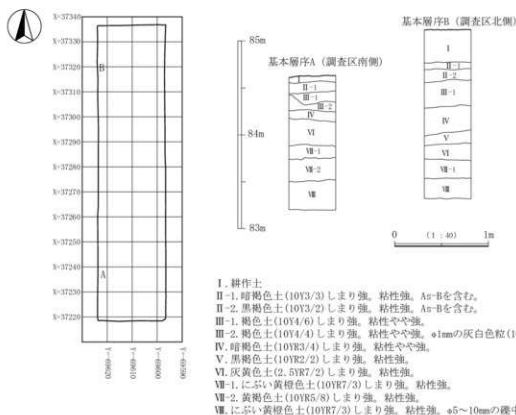
第2表 周辺遺跡一覧表(2)

No.	遺跡名	遺跡内容	文献
51	元島毛古墳群 1	古墳: 前期古墳 石段・土坑・土坑 不明: 3の2区画区画	2011『平成22年度市内遺跡発掘調査報告書』高崎市教育委員会 2017『元島毛古墳群 1』高崎市教育委員会
52	元島毛古墳群 2	古墳: 終末期古墳 古代・集落	1980『高崎市内遺跡発掘調査文化財調査発掘調査報告書』高崎市教育委員会
53	元島下河内遺跡	縄文: 土器 弥生: 弥生 前期古墳: 古墳 前期古墳: 古墳 集落	1994『元島下河内遺跡』高崎市教育委員会
54	元島毛野字竹原遺跡	縄文: 弥生 古墳: 前期古墳	2010『平成21年度 市内遺跡発掘調査報告書』高崎市教育委員会
55	元島毛野草塚古墳	古墳: 前期古墳 方墳・土坑・土坑 石段・土坑 土坑 土坑	1981『元島毛野草塚古墳』高崎市教育委員会
56	元島古墳群	古代: 8下古墳	1983『元島・元島前・村東遺跡』高崎市教育委員会
57	村東遺跡	古代: 建物, 8下古墳	1985『元島・元島前・村東遺跡』高崎市教育委員会
58	山島遺跡	古代: 建物, 土坑, 土坑, 8下古墳	1984『山島・元神遺跡』高崎市教育委員会
59	元神遺跡	縄文: 前期古墳, 古代: 建物, 土坑, 土坑, 土坑	1984『山島・元神遺跡』高崎市教育委員会
60	元神久保遺跡	縄文: 弥生 古代: 建物, 8下古墳	1985『元神久保遺跡』高崎市教育委員会
61	万寿寺遺跡	古代: 中期・前期古墳 弥生: 前期古墳 古墳: 前期古墳, 古代: 集落, 8下古墳 中世: 建物, 中世	1985『万寿寺遺跡』高崎市教育委員会
62	野入稲塚ノ越塚	古代: 8下古墳	1992『高崎市内遺跡発掘調査文化財調査発掘調査報告書』高崎市教育委員会
63	藤ノ越塚	前期古墳	1986『新編高崎市内史 資料編3 中世1』高崎市史編さん委員会 1997『高崎発掘遺跡』高崎市教育委員会
64	高崎菅原古墳群	縄文: 弥生 弥生: 前期古墳, 方墳 前期古墳 古墳: 前期古墳, 大塚, 中期古墳, 古墳, 土坑, 土坑, 土坑 古代: 集落, 東山遺跡, 配石, 8下古墳 中世: 土坑, 配石, 配石	1997『高崎菅原古墳群』高崎市教育委員会 1999『新編高崎市内史 資料編4 原始古代1』高崎市史編さん委員会
65	高崎菅原古墳群 2	縄文: 中期古墳 弥生: 中期後半～前期古墳 古墳: 前期～前期古墳, 中期～前期古墳, 前期大塚 後期新石器遺跡土器類 古代: 集落, 東山遺跡, 8下古墳 中世: 土坑, 土坑, 土坑	2002『高崎発掘遺跡』高崎市教育委員会
66	南大船沖遺跡	弥生: 方墳 前期古墳 古代: 建物, 土坑, 土坑, 土坑, 土坑 中世: 土坑, 土坑, 土坑	1997『南大船沖遺跡・稲刈遺跡』高崎市教育委員会 1997『高崎発掘遺跡』高崎市教育委員会
67	南大船沖遺跡 2	古墳: 前期古墳 古代: 集落, 土坑, 土坑, 土坑, 土坑	1997『南大船沖遺跡・稲刈遺跡』高崎市教育委員会
68	南大船沖遺跡 3	古代: 建物 中世: 土坑, 土坑, 土坑, 土坑, 土坑	1994『高崎市内遺跡発掘調査文化財調査発掘調査報告書』高崎市教育委員会
69	中大船沖遺跡	古代: 8下古墳 中世: 土坑, 土坑, 土坑, 土坑, 土坑	2000『中大船沖遺跡』高崎市教育委員会
70	中大船沖遺跡 2	縄文: 弥生 古墳: 前期古墳, 古代: 集落, 土坑	1980『中大船沖遺跡』高崎市教育委員会
71	中大船沖遺跡 3	古墳: 集落 古代: 集落 中世: 土坑	1992『中大船沖遺跡』高崎市教育委員会
72	中大船沖遺跡 4	古墳: 弥生 古代: 集落 中世: 土坑, 土坑	2011『中大船沖遺跡』高崎市教育委員会
73	藤原遺跡	中世: 前期古墳	1986『新編高崎市内史 資料編3 中世1』高崎市史編さん委員会
74	柴崎遺跡群 西岸遺跡	古代: 8下古墳	1993『柴崎遺跡群 西岸遺跡群』高崎市教育委員会
75	柴崎遺跡群 西岸遺跡	古墳: 方墳 前期古墳 古代: 8下古墳 中世: 土坑, 土坑	1993『柴崎遺跡群 西岸遺跡群』高崎市教育委員会
76	柴崎遺跡群 西岸遺跡	古墳: 前期古墳 (方墳 前期古墳) 古代: 集落, 土坑, 土坑, 土坑, 土坑 中世: 土坑, 土坑, 土坑, 土坑, 土坑	1993『柴崎遺跡群 西岸遺跡群』高崎市教育委員会
77	柴崎遺跡群 西岸遺跡	古代: 8下古墳	1993『柴崎遺跡群 西岸遺跡群』高崎市教育委員会
78	柴崎遺跡群 吹子西遺跡	古代: 8下古墳	1993『柴崎遺跡群 西岸 吹子西遺跡』高崎市教育委員会
79	柴崎遺跡群 野入 吹子西遺跡	中世: 土坑, 土坑, 土坑, 土坑, 土坑	1992『柴崎遺跡群 西岸 野入 吹子西遺跡』高崎市教育委員会
80	野入遺跡	中世: 土坑, 土坑, 土坑, 土坑, 土坑	1996『新編高崎市内史 資料編3 中世1』高崎市史編さん委員会
81	柴崎遺跡群 (Ⅰ) 富土塚B遺跡	古代: 集落 中世: 土坑, 土坑	2012『柴崎・野入遺跡群 Ⅰ(6) 北野寺古墳群』高崎市教育委員会
82	柴崎遺跡群 (Ⅰ) 富土塚B遺跡	古代: 8下古墳 中世: 土坑, 土坑	1986『柴崎遺跡群 (Ⅰ) 新編 柴崎 吹子西 富土塚B遺跡』高崎市教育委員会
83	柴崎遺跡群 (Ⅰ) 相原遺跡	古代: 8下古墳 中世: 土坑, 土坑	1986『柴崎遺跡群 (Ⅰ) 新編 柴崎 吹子西 富土塚B遺跡』高崎市教育委員会
84	柴崎遺跡群 (Ⅰ) 吹子西A遺跡	古代: 8下古墳 中世: 土坑, 土坑	1986『柴崎遺跡群 (Ⅰ) 新編 柴崎 吹子西 富土塚B遺跡』高崎市教育委員会
85	柴崎遺跡群 (Ⅱ) 藤原遺跡	古代: 8下古墳, 水田	1987『柴崎遺跡群 (Ⅱ) 西岸 新編 吹子西A遺跡』高崎市教育委員会
86	柴崎遺跡群 (Ⅱ) 吹子西B遺跡	古代: 8下古墳, 水田	1987『柴崎遺跡群 (Ⅱ) 西岸 新編 吹子西B遺跡』高崎市教育委員会
87	柴崎遺跡群 (Ⅱ) 西岸遺跡	古代: 8下古墳, 水田	1987『柴崎遺跡群 (Ⅱ) 西岸 新編 吹子西B遺跡』高崎市教育委員会
88	柴崎遺跡群 (Ⅲ) 吹子遺跡	不明	1989『柴崎遺跡群 (Ⅲ) 野入 新編 富土塚 野入 吹子 稲刈遺跡』高崎市教育委員会
89	柴崎遺跡群 (Ⅲ) 結石遺跡	古墳: 集落 古代: 集落	1989『柴崎遺跡群 (Ⅲ) 野入 新編 富土塚 野入 吹子 稲刈遺跡』高崎市教育委員会
90	柴崎遺跡群 (Ⅲ) 結石遺跡	古墳: 集落 古代: 集落 中世: 土坑	1989『柴崎遺跡群 (Ⅲ) 野入 新編 富土塚 野入 吹子 稲刈遺跡』高崎市教育委員会
91	柴崎遺跡群 (Ⅲ) 野入遺跡	古墳: 集落 古代: 集落	1989『柴崎遺跡群 (Ⅲ) 野入 新編 富土塚 野入 吹子 稲刈遺跡』高崎市教育委員会
92	柴崎遺跡群 (Ⅲ) 富土塚遺跡	古墳: 集落 古代: 集落	1989『柴崎遺跡群 (Ⅲ) 野入 新編 富土塚 野入 吹子 稲刈遺跡』高崎市教育委員会
93	柴崎遺跡群 (Ⅲ) 野入遺跡	中世: 集落	1989『柴崎遺跡群 (Ⅲ) 野入 新編 富土塚 野入 吹子 稲刈遺跡』高崎市教育委員会
94	元島反石塚	中世: 集落	1996『新編高崎市内史 資料編3 中世1』高崎市史編さん委員会
95	元島反石塚	中世: 集落, 土坑	1986『新編高崎市内史 資料編3 中世1』高崎市史編さん委員会
96	元島町竹野内遺跡	弥生: 弥生	1999『新編高崎市内史 資料編4 原始古代1』高崎市史編さん委員会

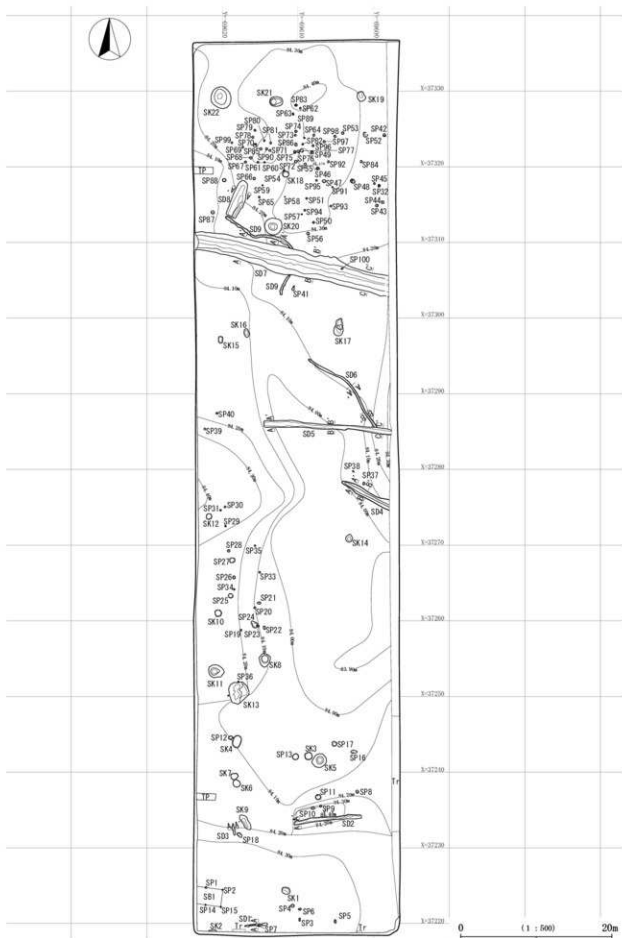
IV. 基本層序

本遺跡は西側に井野川、東側に利根川が位置し、井野川と利根川に挟まれる立地であり、井野川により形成された段丘上に位置する。調査前の地目は水田及び畑であり、比高差は少なく、標高が85m程の平坦な地形である。

調査区西壁の北側及び南側にそれぞれ深堀を入れ、詳細な観察を行った。第Ⅰ層は表土（耕作土）層である。第Ⅱ層は黒褐色～暗褐色土で調査区北側では2層に分層する。Ⅱ-2層はⅡ-1層と比較するとやや黒味が強く、礫の混入が少ない。第Ⅲ層は褐色土で、調査区南側で2層に分層する。Ⅲ-2層は細かい灰白色粒が少量混入する。第Ⅳ層は暗褐色土である。第Ⅴ層は黒褐色土である。調査区北側のみ確認した。第Ⅵ層は灰黄色土であり、上面が遺構確認面となる。第Ⅶ層は黄褐色～にぶい黄橙色土である。調査区南側では2層に分層する。Ⅶ-2層は酸化鉄の付着が見られた。第Ⅷ層はにぶい黄橙色土であり、礫を含む。



第3図 基本層序



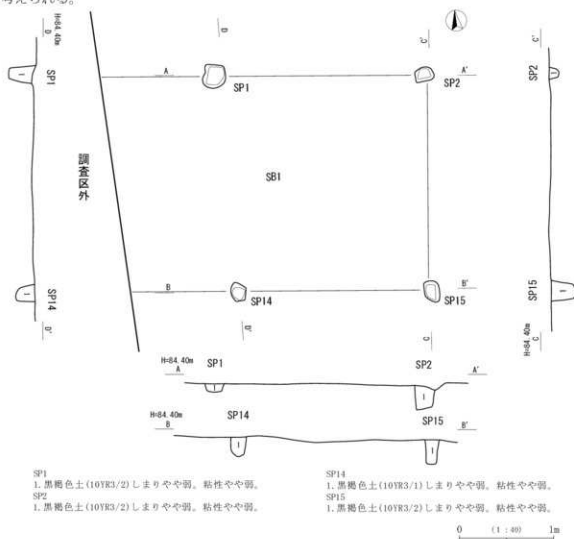
第4図 全体図

V. 検出された遺構と遺物

1 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（第5図）

位置はX = 37223 ~ 37225, Y = -69620 ~ -69623。主軸方向はN - 8° - Eである。規模については、西側が調査区外に延びると考えられるため、全容は不明であるが、北東 - 南西軸方向 220cm、南東 - 北西軸方向は検出長 340cm を測り、形状は長方形を呈すると推定される。柱間寸法は SP1-SP2 間 220cm、SP2-SP15 間 220cm、SP14-SP15 間 205cm を測る。柱穴規模は SP1 が長軸 25cm、短軸 25cm、深さ 28cm を測る。平面形は方形、断面形はU字状を呈する。SP2 が長軸 20cm、短軸 15cm、深さ 14cm を測る。平面形は長方形、断面形は半円状を呈する。SP14 が長軸 20cm、短軸 17cm、深さ 19cm を測る。平面形は不整形、断面形はU字状を呈する。SP15 が長軸 22cm、短軸 16cm、深さ 23cm を測る。平面形は長方形、断面形はU字状を呈する。全てのピットの根入りが浅いことから後世に削平を受けていると考えられる。覆土は黒褐色土を主体とする。遺物は出土していない。覆土の状態から中世に帰属する遺構と考えられる。



第5図 掘立柱建物跡

2 溝跡

本遺跡では、溝を9条検出した。東西方向に伸び、東から西に傾斜する溝が多く見受けられる。遺物は僅かにSD5で近世の鉢と考えられる瓦質土器の細片、SD7において中世の挿鉢、土鍋と考えられる瓦質土器の細片が出土しているのみであり、時期が不明瞭な溝が多いが、SD5・7は出土遺物と覆土の状態から少なくとも中世以降の遺構だと考えられる。またSD4・9もSD5・7と類似する覆土であることから同様に中世以降に機能していた遺構だと推定できる。SD6・9は覆土の状態と位置関係から同一遺構である可能性がある。また、位置関係からSD8と同時期に機能していたと推定されることから同様に中世以降に機能していた遺構だと考えられる。SD4・5・6・7・9は形状から水路として機能していたと考えられる。

1号溝跡（第4・6図）

位置はX = 37219 ~ 37220, Y = -69614 ~ -69617。規模は長さ301cm、幅29cm、深さ16cmを測る。断面形は、台形状を呈する。東西方向に直線状に伸びる。南岸の中央付近でSP7と重複し、これに切られる。底面は東から西に傾斜する。覆土は単層でぶい黄褐色土を主体とし黄褐色土が混じる。遺物は出土していない。時期は不明。

2号溝跡（第4・6図）

位置はX = 37233 ~ 37234, Y = -69601 ~ -69610。規模は長さ896cm、幅56cm、深さ16cmを測る。断面形は台形状を呈する。東西方向に直線状に伸び、底面は西から東に傾斜する。覆土は単層で黒褐色土を主体とし褐色土が混じる。遺物は出土していない。時期は不明。

3号溝跡（第4・7図）

位置はX = 37231 ~ 37233, Y = -69618 ~ -69619。規模は長さ157cm、幅28cm、深さ40cmを測る。断面形は、U字状を呈する。南北方向に直線状に伸び、底面は南から北に傾斜する。覆土は単層で黒褐色土を主体とし明黄褐色土が少量混じる。遺物は出土していない。時期は不明。

4号溝跡（第4・7図）

位置はX = 37274 ~ 37278, Y = -69598 ~ -69604。規模は長さ(652)cm、幅104cm、深さ11cmを測る。断面形は、弧状を呈する。南東から北西方向に直線状に伸び、底面は南東から北西に傾斜する。覆土は2層に分層し、1層は暗褐色土を主体とし褐色土が混じる。2層は黒褐色土を主体とする。遺物は出土していない。SD5・7と類似する覆土であることから同様に中世以降の遺構だと考えられる。形状から水路として機能していたと考えられる。

5号溝跡（第4・7・8図、第3表）

位置はX = 37284 ~ 37286, Y = -69597 ~ -69614。規模は長さ(1686)cm、幅86cm、深さ25cmを測る。断面形は台形状を呈する。東西方向に直線状に伸びる。北岸東側でSD6と重複し、これを切る。底面は東から西に傾斜する。覆土は黒褐色土を主体とし明黄褐色土が少量混じる。遺物は近世の鉢と考えられる瓦質土器と細片のため図示できなかつたが、土師器の甕とカワラケが出土しているが、細片であり、また覆土の上層からの出土であることから本遺構に帰属するものではなく、混入品と考えられる。時期は遺物と覆土の状態から中世以降と推定される。形状から水路として機能していたと考えられる。

6号溝跡 (第4・7図)

位置はX = 37285 ~ 37294, Y = -69599 ~ -69608。規模は長さ(1326)cm、幅37cm、深さ8cmを測る。断面形は、弧状を呈する。南東から北西方向にやや湾曲して延びる。南東端部はSD7と重複し、これに切られる。底面は南東から北西に傾斜する。覆土は単層で黒褐色土を主体とし褐色土が混じる。遺物は出土していない。北西に位置するSD9は、本遺構と規模及び覆土が似ており、位置関係からも考慮すると同一遺構の可能性があり、後世の削平により、遺構の上面部分が破壊され底面付近が残されたと考えられる。時期はSD8と同時期に使用されたたとすると、中世以降だと考えられる。形状から水路として機能していたと考えられる。

7号溝跡 (第4・7・8図, 第3表)

位置はX = 37302 ~ 37311, Y = -69598 ~ -69623。規模は長さ(2577)cm、幅332cm、深さ69cmを測る。断面形は、台形状を呈する。東西方向に直線状に延びる。中央付近でSD9と重複し、これを切る。底面は西から東に傾斜する。覆土は3層に分層し、1~3層にまで黒褐色土を主体とし1層は褐色土と褐灰色土が混じり、3層は浅黄褐色土が混じる。遺物は16世紀のものと考えられる土師質土器の播鉢、中世のものと考えられる、瓦質土器の土鍋が出土しているが、覆土の上層からの出土であり、また細片であることから本遺構に帰属する遺物ではなく混入品であると考えられる。時期は遺物と覆土の状態から中世以降と推定される。

8号溝跡 (第4・7図)

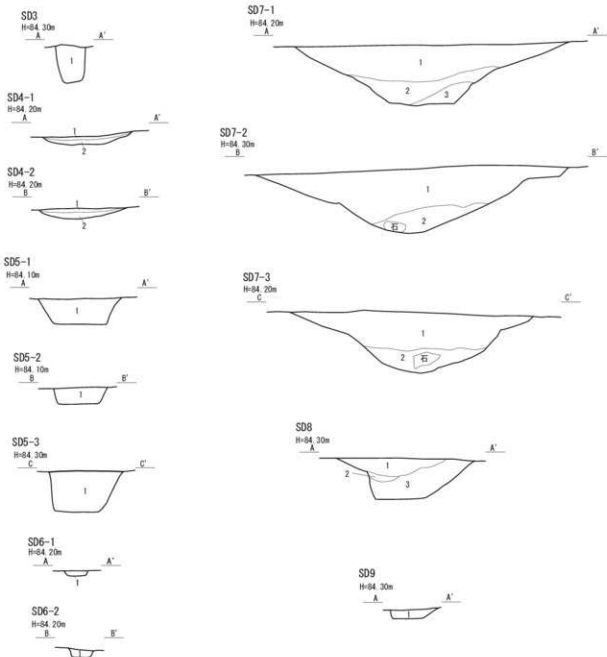
位置はX = 37313 ~ 37317, Y = -69616 ~ -69619。規模は長さ503cm、幅177cm、深さ42cmを測る。断面形は台形状を呈する。北東から南西方向に直線状に延びる。底面は北東から南西に傾斜する。覆土は3層に分層され、1層は黒褐色土を主体とし褐色土と褐灰色土が混じる。2層は褐灰色土を主体とし褐色土と褐灰色土が混じる。3層は、褐灰色土を主体とし褐灰色土が混じる。遺物は出土していない。南西端部はSD9と重複する前に収束する。位置関係からSD9と同時期に利用された溝である可能性もある。SD5・7と類似する覆土であることから同様に中世以降の遺構だと考えられる。

9号溝跡 (第4・7図)

位置はX = 37303 ~ 37313, Y = -69610 ~ -69619。規模は長さ(1670)cm、幅54cm、深さ11cmを測る。断面形状は弧状を呈する。南北方向から屈曲して東西方向に延びる。南側付近でSD7と重複し、これに切られる。底面は東から西に傾斜する。覆土は単層で黒褐色土を主体とし褐色土が混じる。遺物は出土していない。時期はSD8と同時期に使用されたたとすると、中世以降だと考えられる。形状から水路として機能していたと考えられる。



第6図 溝跡(1)



SD3

1. 黒褐色土(10YR2/2)しまり強。粘性強。
φ1~5mmの明黄褐色土(10YR6/6)少量。

SD4

1. 暗褐色土(10YR3/3)しまり強。粘性やや強。
φ2~5mmの褐色土(10YR4/4)中量。
2. 黒褐色土(10YR3/1)しまり強。粘性強。

SD5

1. 黒褐色土(10YR3/1)しまり強。粘性強。
褐色土(10YR4/6)多量。

SD6

1. 黒褐色土(10YR3/1)しまり強。粘性やや強。
φ2~20mmの褐色土(10YR4/6)中量。

SD7

1. 黒褐色土(10YR3/1)しまり強。粘性強。φ1~5mmの褐色土(10YR4/6)中量。φ1~2mmの灰白色粒(10YR8/1)微量。
2. 黒褐色土(10YR3/1)しまり強。粘性強。
3. 黒褐色土(10YR3/1)しまり強。粘性強。浅黄色土(10YR8/4)少量。

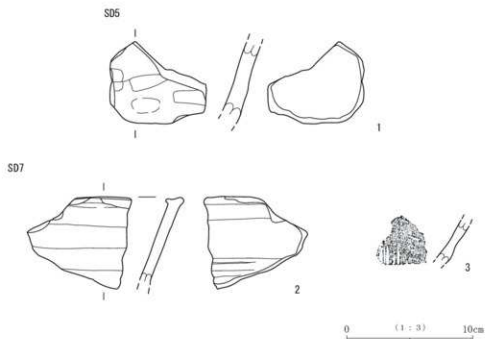
SD8

1. 黒褐色土(10YR3/2)しまり強。粘性やや強。φ1~5mmの褐色土(10YR4/6)微量。φ1~2mmの灰白色粒(10YR8/1)微量。
2. 褐灰色土(10YR4/1)しまり強。粘性やや強。φ1~5mmの褐色土(10YR4/6)微量。φ1~3mmの灰白色粒(10YR8/1)微量。
3. 褐灰色土(10YR4/1)しまり強。粘性やや強。φ5~30mmの褐色土(10YR4/6)少量。φ1~2mmの灰白色粒(10YR8/1)微量。

SD9

1. 黒褐色土(10YR3/1)しまり強。粘性やや弱。
φ1~3mmの褐色土(10YR4/6)中量。

第7図 溝跡(2)



第8図 溝跡内出土遺物

第3表 溝跡内出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①焼成②粘土 ③残存部位④残存産	外面色調	内面色調	主な文様・特徴等	備考
1	瓦質土器 鉢カ	SD5	口径： 器高： 底径：	①良好 ②白色粒子・黒色粒子 ③胴部 ④脚片	10B5/1 陶灰色	10B5/1 陶灰色	外面：ナデ 内面：丁寧なナデ	近世以降
2	瓦質土器 土鍋	SD7	口径： 器高：(7.3) 底径：	①良好 ②白色粒子・黒色粒子・ 石英粒・チャート粒 ③口縁部～胴部 ④底	2.0B3/1 黒褐色	10B6/1 陶灰色	口唇部を大きく開く「V」字状に整形。 外面：横方向へラナデ 内面：ナデ	中世期
3	土師質土 器 種別	SD7	口径： 器高： 底径：	①良好 ②白色粒子 ③胴部 ④脚片	10B2/2 黒褐色	10B2/2 黒褐色	横り径5cm以上。 内外面：ナデ	16C

3 土坑

本遺跡では、22基を検出した。土坑は調査区をやや西側に偏る傾向が見られる。SDと同様に遺物の出土量は僅かであり、時期が不明瞭なものが多い。SK5・8・20・22は形状や底面の標高等を考慮すると井戸として使用されていたと考えられる。また、SK5・14は覆土に多量の礫が混入しており、SK5から出土したNo.5とNo.6の2点を除いて、使用痕を確認することができなかった。すべての土坑を詳細に説明することは煩雑となるため、第7表遺構一覧表に委ね、主な土坑についてのみ簡潔に報告させていただく。

3号土坑（第9・12図、第4表）

位置はX = 37241 ~ 37242、Y = -69608 ~ -69609。規模は長軸104 cm、短軸101 cm、深さ17 cmを測る。平面形状は円形、断面形状は台形状を呈する。覆土は単層で、黒褐色土である。遺物は瓦質土器の土鍋1点が出土している。本遺構は、埋土の状況から中世以降に帰属すると考えられる。

5号土坑（第9・12図、第4表）

位置はX = 37240 ~ 37242、Y = -69606 ~ -69608。規模は長軸195 cm、短軸180 cm、深さ80 cmを測る。平面形状は円形、断面形状は漏斗状を呈する。覆土は3層に分層し、黒色～黒褐色土で多量に礫が混入する。井戸として使用されたと考えられる。遺物は土師器の甕1点、石器が2点出土しているが、礫を廃棄する際に混入した可能性が高い。本遺構は、埋土の状況から中世以降に帰属すると考えられる。

8号土坑（第9図）

位置はX = 37253 ~ 37255、Y = -69613 ~ -69615。規模は長軸181 cm、短軸146 cm、深さ84 cmを測る。平面形状は不整形、断面形状は漏斗状を呈する。覆土は4層に分層し、黒褐色～暗褐色土である。規模や断面形状はSK5と似るが、礫の混入が皆無である。井戸として使用されたと考えられる。

11号土坑（第10図）

位置はX = 37252 ~ 37254、Y = -69619 ~ -69621。規模は長軸213 cm、短軸168 cm、深さ74 cmを測る。平面形状は楕円形、断面形状は台形状を呈する。覆土は4層に分層し、黒色～褐色土である。礫が混入するがSK5と比較すると密度は疎である。遺物は摩耗により判別が困難である土器片1点が出土している。

13号土坑（第10図）

位置はX = 37249 ~ 37251、Y = -69616 ~ -69619。規模は長軸286 cm、短軸258 cm、深さ68 cmを測る。平面形状は不整形、断面形状は台形状を呈する。覆土は9層に分層し、黒色～にぶい黄褐色土である。礫が混入するが、密度はSK11と同様にSK5と比較すると疎である。

14号土坑（第10図）

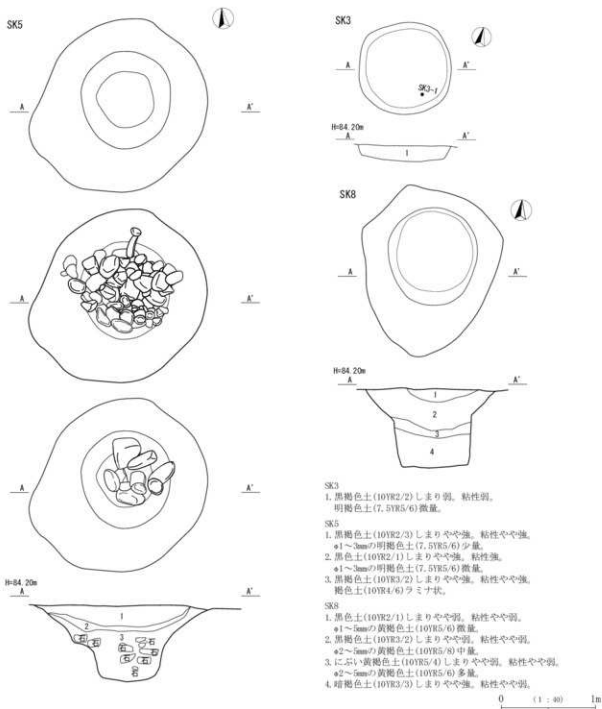
位置はX = 37270 ~ 37271、Y = -69602 ~ -69603。規模は長軸106 cm、短軸89 cm、深さ47 cmを測る。平面形状は円形、断面形状は台形状を呈する。覆土は単層であり、黒褐色土である。SK5と同様に礫が多量に混入する。

15号土坑 (第10・12図, 第4表)

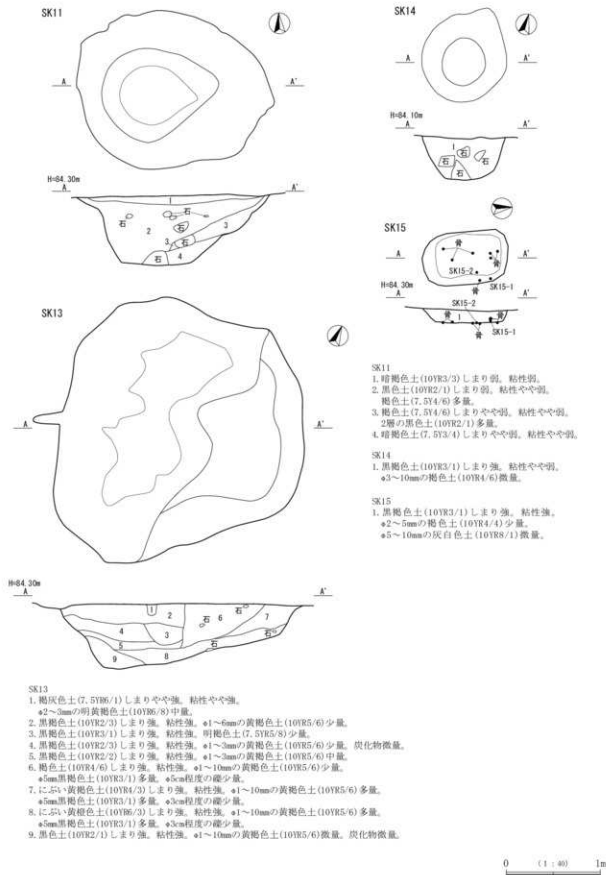
位置はX = 37296 ~ 37297, Y = -69619 ~ 69620。規模は長軸91cm、短軸63cm、深さ16cmを測る。平面形は方形、断面形は台形状を呈する。覆土は単層である。遺物は銭貨が2枚、骨片が出土している。

20号土坑 (第11・12・13図, 第4表)

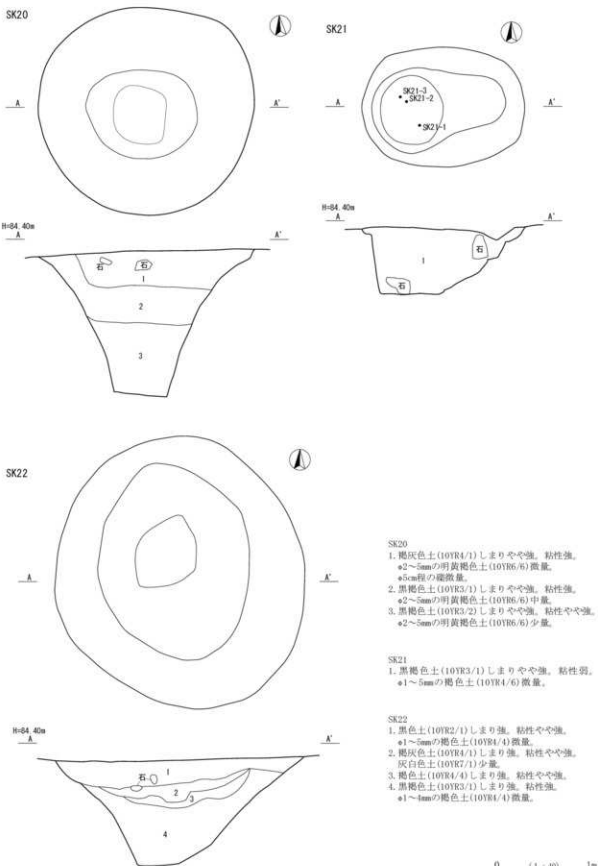
位置はX = 37311 ~ 37313, Y = -69612 ~ -69614。規模は長軸227cm、短軸222cm、深さ153cmを測る。平面形は円形、断面形は漏斗状を呈する。覆土は3層に分層し、黒褐色～黄灰色土である。1層から礫が僅かに出土した。井戸として使用されたと考えられる。遺物は須恵質土器・カワラケ・瓦製品が出土している。



第9図 土坑(1)

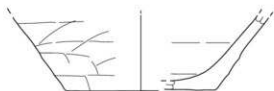


第10図 土坑(2)



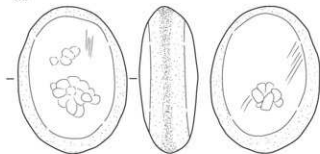
第11図 土坑(3)

SK3

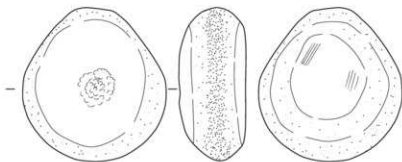


4

SK5



5



6



0 (1:3) 10cm

SK15



7



8

0 (1:1) 2cm

SK20



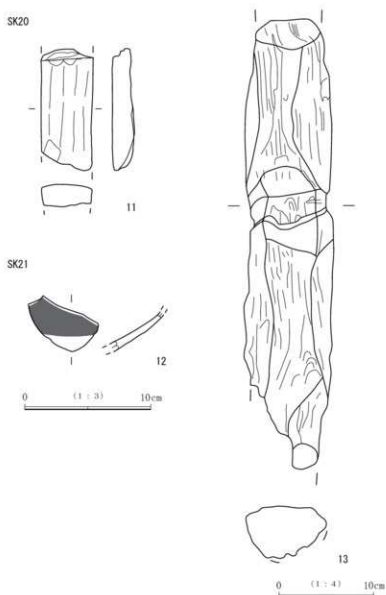
9



10

0 (1:3) 10cm

第12圖 土坑内出土遺物(1)



第13図 土坑内出土遺物(2)

21号土坑 (第11・13図, 第4表)

位置はX = 37328 ~ 37329, Y = -69612 ~ -69613。規模は長軸172 cm、短軸126 cm、深さ72 cmを測る。平面形は楕円形、断面形は台形状を呈する。覆土は単層であり、黒褐色土で礫が混入する。遺物は陶器片・杭・種子が出土している。

22号土坑 (第11図)

位置はX = 37327 ~ 37330, Y = -69618 ~ -69622。規模は長軸287 cm、短軸263 cm、深さ114 cmを測る。平面形は円形、断面形は台形状を呈する。覆土は4層に分層し、黒色～褐色土である。1・2層から礫が僅かに出土した。井戸として使用されたと考えられる。

第4表 土坑内出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①構成原料土 ②埋存部位③残存度	外面色調	内面色調	主な文様・特徴等	備考
4	瓦質土器 土織カ	SK3	口径： 器高：(5.9) 底径：(11.8)	①良好 ②白色粒子・黒色顆 子・石英粒 ③胴部～底部 ④傷	10YR6/1 褐色色	10YR7/2 にぶい黄褐色	外面：胴部斜方向へラナゲ後ナゲ、底部ナゲ 内面：横方向へラナゲ後ナゲ	中世期
5	石器 磨石・磨石	SK5	長さ：11.8 幅：8.7 厚さ：4.6 重量：608.5 g	④完存			裏面に粗雑な凹部、磨り面は全面	安山岩 縄文時代
6	石器 磨石・磨石 カ	SK3	長さ：12.2 幅：11.4 厚さ：5.2 重量：1090.0 g	④完存			表面に平坦部、裏面に縦打痕、磨り面は全面	砂岩 縄文時代
7	銅製品 鉄貨	SK15	径：2.4 幅： 厚さ：0.14 重量：2.7 g	④完存			水菜通貫、私铸銭。	1408年初铸
8	銅製品 鉄貨	SK15	径：2.4 幅： 厚さ：0.16 重量：3.0 g	④完存			水菜通貫、私铸銭。	
9	須恵質土器 鉢カ	SK20	口径： 器高： 底径：	①良好 ②白色粒子・石英粒・ チャート粒 ③胴部 ④細片	7.5YR6/1 褐色色	7.5YR6/1 褐色色	外面：ナゲ、一部強いナゲ 内面：丁寧なナゲ	中世
10	カワラケ	SK20	口径：(11.6) 器高：2.8 底径：6.6	①良好 ②白色粒子 ③口縁部～底部 ④50%	10YR6/3 にぶい黄褐色 6/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色 6/2 灰黄褐色	外面：ヨコナゲ、下輪ナゲ、底分付着。 底部右側転車切り跡し後未調整。 内面：全面ナゲ、黒色付着物。	15C末～16C
11	瓦製品 鬼瓦カ	SK20	長さ：(9.7) 幅：4.1 厚さ：(1.8) 重量：97.3 g	④細片			黒緑頭部カ、上面をヘラケズリで整形、ナゲ	近世以降
12	陶器 皿	SK21	口径： 器高： 底径：	①良好 ②白色粒子 ③胴部 ④細片	軸差：5Y6/2 灰オリーブ色 10YR6/1 褐色色	軸差：5Y6/2 灰オリーブ色	外面：灰軸、下位施軸なし 内面：全面に灰軸	
13	木製品 杖	SK21	長さ：47.6 幅：9.4 厚さ：6.4	③先端部 ④不明			5面を面取りして加工。	

4 ピット

本遺跡では、100基を検出した。調査区南側の西壁付近から検出されたSP1・2・14・15は据立柱建物(SB1)を構成する。ピットは調査区北側に集中する傾向が見られる。土坑と同様に、すべてのピットを詳細に説明することは煩雑となるため、第7・8表遺構一覧表に委ね、遺物を包含する主なピットについてのみ簡潔に報告させていただく。

3号ピット(第14、15図、第5表)

位置はX=37220、Y=-69609。規模は長軸41cm、短軸20cm、深さ24cmを測る。平面形は楕円形、断面形はU字状を呈する。覆土は単層で黒褐色土である。遺物は土師器の高坏が出土している。

8号ピット(第14図)

位置はX=37237、Y=-69602～-69603。規模は長軸41cm、短軸37cm、深さ24cmを測る。平面形は円形、断面形は台形状を呈する。覆土は2層に分層し暗褐色土～灰黄色土である。遺物は土師器片が出土している。

22号ピット(第14、15図、第5表)

位置はX=37259～37260、Y=-69614。規模は長軸44cm、短軸28cm、深さ18cmを測る。平面形は長方形、断面形は台形状を呈する。覆土は単層で黒褐色土である。遺物は土師器の甕が出土している。

33号ピット(第14図)

位置はX=37266、Y=-69614～-69615。規模は長軸24cm、短軸22cm、深さ21cmを測る。平面形は円形、断面形はU字状を呈する。覆土は単層で黒褐色土である。遺物は杭が出土している。

45号ピット(第14、15図、第5表)

位置はX=37317、Y=-69599～-69600。規模は長軸29cm、短軸23cm、深さ19cmを測る。平面形は楕円形、断面形はU字状を呈する。覆土は単層で黒褐色土である。遺物は杭が出土している。

72号ピット(第14図)

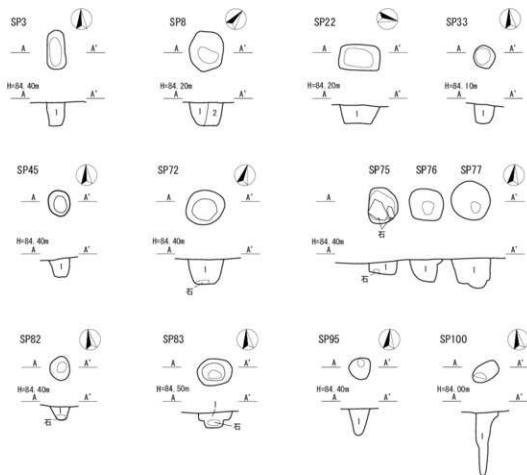
位置はX=37320、Y=-69611。規模は長軸43cm、短軸36cm、深さ26cmを測る。平面形は円形、断面形状は半円状を呈する。覆土は単層で黒褐色土である。礎石の可能性のある石が出土している。

75号ピット(第14図)

位置はX=37321～37322、Y=-69611。規模は長軸39cm、短軸30cm、深さ14cmを測る。平面形は楕円形、断面形状は箱状を呈する。覆土は単層で黒褐色土である。礎石の可能性のある石が出土している。

82号ピット(第14図)

位置はX=37322～37323、Y=-69609。規模は長軸25cm、短軸20cm、深さ15cmを測る。平面形は楕円形、断面形状は半円状を呈する。覆土は単層で黒褐色土である。礎石の可能性のある石が出



SP3

1. 黒褐色土(10YR3/1)しまり強。粘性強。
 *2mmのぶい黄褐色土(10YR5/6)少量。

SP8

1. 暗褐色土(10YR3/3)しまりやや強。粘性強。
 暗灰色土(10YR6/1)少量。
2. 灰黄色土(10YR4/2)しまり強。粘性強。
 暗褐色土(10YR3/3)中量。
 黄褐色土(10YR5/6)中量。

SP22

1. 黒褐色土(10YR3/2)しまり強。粘性強。
 *1~5mmの明黄褐色土(10YR6/6)微量。

SP33

1. 黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強。粘性やや強。
 *1mmの明黄褐色土(10YR6/8)少量。

SP45

1. 黒褐色土(10YR3/1)しまり強。粘性強。

SP72

1. 黒褐色土(10YR2/2)しまり強。粘性やや強。
 *1~10mmの褐色土(10YR4/6)少量。
 *5~20mmの灰黄色土(2.5Y7/2)微量。

SP75

1. 黒褐色土(10YR2/2)しまり強。粘性やや強。
 *2~10mmの褐色土(10YR4/6)少量。

SP76

1. 黒褐色土(10YR2/2)しまり強。粘性やや強。
 *2~10mmの褐色土(10YR4/6)少量。
 *5~30mmの灰黄色土(2.5Y7/2)微量。

SP77

1. 黒褐色土(10YR2/2)しまり強。粘性やや強。
 *1~10mmの褐色土(10YR4/6)少量。
 *5~20mmの灰黄色土(2.5Y7/2)微量。

SP82

1. 黒褐色土(10YR2/2)しまり強。粘性やや強。
 *1~3mmの褐色土(10YR4/6)少量。

SP83

1. 黒褐色土(10YR2/2)しまり強。粘性やや強。
 *2~10mmの褐色土(10YR4/6)少量。
 *3~10mmの灰黄色土(2.5Y7/2)少量。

SP95

1. 黒褐色土(10YR2/2)しまり強。粘性やや強。
 *1~5mmの褐色土(10YR4/6)微量。

SP100

1. 黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強。粘性強。

0 (1:40) 1m

第14図 ビット

土している。

83号ピット (第14図)

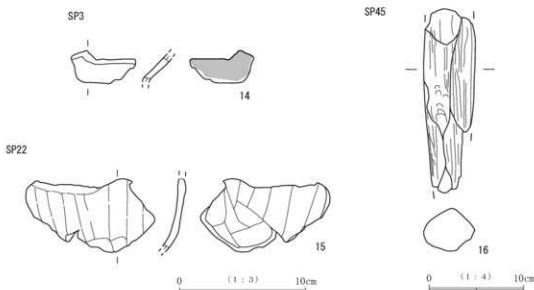
位置はX = 37328、Y = -69610。規模は長軸 38 cm、短軸 29 cm、深さ 18 cmを測る。平面形は楕円形、断面形状は半円状を呈する。覆土は単層で黒褐色土である。礎石の可能性のある石が出土している。

95号ピット (第14図)

位置はX = 37318、Y = -69607。規模は長軸 23 cm、短軸 22 cm、深さ 28 cmを測る。平面形は円形、断面形状はU字状を呈する。覆土は単層で黒褐色土である。遺物はカワラケが出土している。

100号ピット (第14図)

位置はX = 37306、Y = -69604。SD7と重複し、これに切られる。規模は長軸 30 cm、短軸 17 cm、深さ 68 cmを測る。平面形は楕円形、断面形状はU字状を呈する。覆土は単層で黒褐色土である。遺物は杭が出土している。時期は中世以降と考えられる。



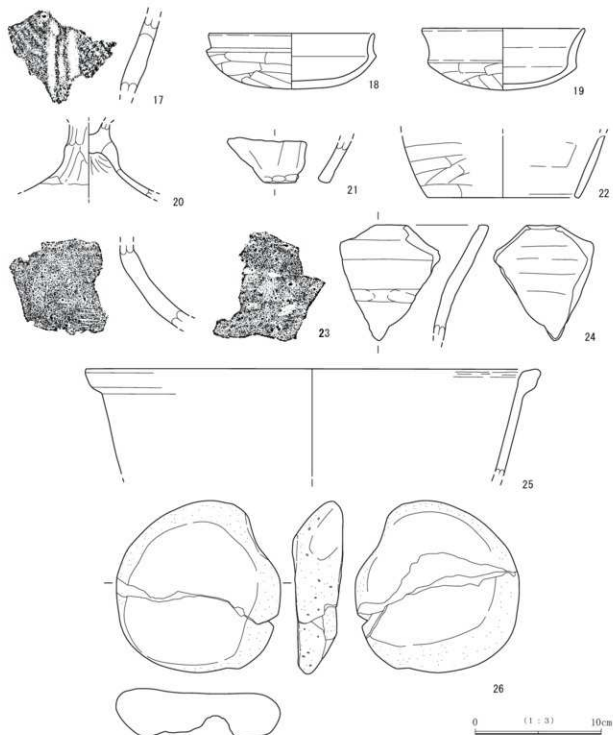
第15図 ピット内出土遺物

第5表 ピット内出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①地成②粘土 ③残存部位④残存度	外面色調	内面色調	主な文様・特徴等	備考
14	土師器 高杯	SP3	口径: 器高: 底径:	①良好 ②白色粒子・赤色粒子・ チャート粒子 ③杯部体部 ④破片	5036/6 褐色	1003/8 赤色	外面: ナダ 内面: ナダ, 赤彩	
15	土師器 甕	SP22	口径: 器高: 底径:	①良好 ②白色粒子・赤色粒子・ チャート粒子・角閃石 ③胴部 ④破片			外面: 縦方向ヘラケズリ 内面: 多方向ヘラナダ	
16	木製品 杭	SP45	長さ: 19.3 幅 : 5.4 厚さ: 4.0	③先端部 ④不明			中央部に加工痕, 先端部一部加工。	

5 遺構外出土遺物（第16・17図，第6表）

表土からは土師器片、陶磁器片、瓦質土器片、石器、銭貨などが出土した、そのうち10点を掲載する。17は加曾利E式の縄文土器の深鉢の体部片。18は鬼高式の土師器の坏。19も鬼高式の土師器の坏。20は鬼高式の土師器の高坏の脚部。21は土師器の甔の底部片。22も土師器の甔の底部片。23は常滑焼の甕の頸部片。24は瓦質土器の土鍋の口縁部片（鉢カ）。25は瓦質土器の口縁部片（鉢カ）。26は安山岩製の磨石（台石カ）。27は真書体の天聖元寶である。2枚が壺着しており、一枚は何銭か不明である。初鑄は天聖元年（1023）である。



第16図 遺構外出土遺物（1）



第17図 遺構外出土遺物(2)

第6表 遺構外出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①構成②粘土 ③残存部位④残存状況	外面色調	内面色調	主な文様・特徴等	備考
17	縄文土器 深鉢	表土	口径： 器高： 器底： 底径：	①不良 ②白色粒子 ③胴部 ④細片	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	全面に数分付着。 外面：器面摩耗のため器体不明の縄文を基文後並 行する沈澱を3条重下。 内面：ナデ。	縄文時代中期後葉 加賀川上段～IV式期
18	土師器 杯	表土	口径：13.0 器高：4.4 底径：	①良好 ②白色粒子・赤色粒子・ 角閃石 ③口縁部～底部 ④75%	5YR3/4 暗赤褐色	5YR5/8 明赤褐色	乳高型杯。丸底。口縁部直立し口縁部と体部の境 に明瞭な境。 外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ 内面：ナデ	6C 後葉から。 7C 前葉
19	土師器 杯	表土	口径：[12.8] 器高：4.9 底径：	①良好 ②白色粒子・赤色粒子・ チャート粒子 ③口縁部～底部 ④80%	7.5YR7/8 黄褐色	7.5YR7/8 黄褐色	乳高型杯。丸底。口縁部長く外反。口縁部と体部 の境に不明瞭な境。 外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ 内面：ナデ	7C 前葉から中葉
20	土師器 高杯	表土	口径： 器高：(5.9) 底径：	①良好 ②白色粒子・角閃石 ③胴部 ④30%	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	杯部及び瓶部欠損。 外面：縦方向ヘラケズリ 内面：ナデ。絞り痕	乳高期
21	土師器 瓶	表土	口径： 器高：(3.6) 底径：	①不良 ②白色粒子・赤色粒子・ チャート粒子 ③胴部～底部 ④細片	7.5YR5/8 明褐色	7.5YR7/6 褐色	単孔。全面に数分付着。 外面：胴部縦方向ヘラケズリ。下縁横方向ナデ。 内面：ナデ。	
22	土師器 土罎	表土	口径： 器高：(4.9) 底径：[12.0]	①不良 ②白色粒子・赤色粒子・ ③胴部～底部 ④細片	7.5YR5/8 明褐色	7.5YR7/6 褐色	単孔。 外面：胴部縦方向ヘラケズリ後ナデ。 内面：縦方向ヘラナデ後ナデ。	
23	土師器 壺	表土	口径： 器高： 器底： 底径：	①良好 ②白色粒子・黒色粒子・ 小礫 ③胴部 ④細片	5YR3/6 暗赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	内外面：ナデ	常備瓶
24	瓦質土器 土罎	表土	口径： 器高：(9.2) 底径：	①良好 ②白色粒子・黒色粒子・ 石英粒・チャート粒 ③口縁部～胴部 ④10%	2.5YR/1 黄灰色	10YR6/2 灰黄褐色	口唇部平直。 外面：横方向ヘラナデ。ナデ 内面：横方向ヘラナデ後ナデ	中世期
25	瓦質土器 鉢方	表土	口径：[36.0] 器高：(8.5) 底径：	①良好 ②白色粒子・黒色粒子 ③口縁部～胴部 ④10%	5Y4/1 灰色	5Y4/1 灰色	口唇部3面面取り。外側に突出。 内外面：ナデ	近世以降
26	石器 磨石・台 石方	表土	長さ：13.0 幅：13.6 厚さ：4.0 重量：736.5	①完存			表面に平頭部。全面に埋付着	安山岩 縄文時代
27	銅製品 銭貨	表土	径：2.4 幅： 厚さ：0.2 重量：6.4 g	①完存			2枚重着。天智元寶(1023年初鑄)・不明	

第7表 遺構一覧表(1)

番号	位置	平 状	断 状	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備 考
SD1	X = 37219 ~ 37220, Y = -69614 ~ -69617		台形状	301	29	16	SP7に切られる。
SD2	X = 37233 ~ 37234, Y = -69601 ~ -69610		台形状	896	56	16	
SD3	X = 37231 ~ 37233, Y = -69618 ~ -69619		U字状	137	28	40	
SD4	X = 37274 ~ 37278, Y = -69598 ~ -69604		弧状	(652)	104	11	
SD5	X = 37284 ~ 37286, Y = -69597 ~ -69614		台形状	(1686)	86	25	SD6を切る。
SD6	X = 37285 ~ 37294, Y = -69599 ~ -69608		弧状	(1326)	37	8	SD5に切られる。
SD7	X = 37303 ~ 37311, Y = -69597 ~ -69623		台形状	(2577)	332	69	SD9を切る。
SD8	X = 37313 ~ 37317, Y = -69616 ~ -69619		台形状	503	177	42	
SD9	X = 37303 ~ 37313, Y = -69610 ~ -69619		弧状	(1670)	54	11	SD7に切られる。
SK1	X = 37223 ~ 37234, Y = -69611 ~ -69612	円形	弧状	101	91	14	
SK2	X = 37219, Y = -69620 ~ -69621	不明	台形状	(100)	(25)	48	
SK3	X = 37241 ~ 37242, Y = -69608 ~ -69609	円形	台形状	104	101	17	
SK4	X = 37243 ~ 37244, Y = -69617 ~ -69618	長方形	弧状	161	111	8	
SK5	X = 37240 ~ 37242, Y = -69606 ~ -69608	円形	漏斗状	195	180	80	
SK6	X = 37238 ~ 37239, Y = -69617 ~ -69618	円形	弧状	(103)	92	8	SK7に切られる。
SK7	X = 37238 ~ 37239, Y = -69617 ~ -69618	円形	弧状	99	84	11	SK6を切る。
SK8	X = 37253 ~ 37255, Y = -69613 ~ -69615	不整形	漏斗状	181	146	84	
SK9	X = 37232 ~ 37234, Y = -69616 ~ -69617	楕円形	台形状	225	91	54	
SK10	X = 37260 ~ 37261, Y = -69620	円形	筒状	98	93	45	
SK11	X = 37252 ~ 37254, Y = -69619 ~ -69621	楕円形	台形状	213	168	74	
SK12	X = 37273 ~ 37274, Y = -69621 ~ -69622	円形	筒状	81	74	52	
SK13	X = 37249 ~ 37251, Y = -69616 ~ -69619	不整形	台形状	286	238	68	
SK14	X = 37270 ~ 37271, Y = -69602 ~ -69603	円形	台形状	106	89	47	
SK15	X = 37296 ~ 37297, Y = -69619 ~ -69620	方形	台形状	91	63	16	
SK16	X = 37297 ~ 37298, Y = -69616 ~ -69617	楕円形	弧状	115	64	9	
SK17	X = 37297 ~ 37298, Y = -69604 ~ -69605	楕円形	台形状	232	120	50	
SK18	X = 37318 ~ 37319, Y = -69611 ~ -69612	円形	筒状	86	77	33	
SK19	X = 37328 ~ 37329, Y = -69602 ~ -69603	不整形	弧状	129	98	20	
SK20	X = 37311 ~ 37313, Y = -69612 ~ -69614	円形	漏斗状	227	222	153	
SK21	X = 37328 ~ 37329, Y = -69612 ~ -69613	楕円形	台形状	172	156	72	
SK22	X = 37327 ~ 37330, Y = -69618 ~ -69622	円形	台形状	287	263	114	
SP1	X = 37224, Y = -69622	方形	U字状	25	25	28	SB1を構成するビット。
SP2	X = 37224, Y = -69619 ~ -69620	長方形	平円形	20	15	14	SB1を構成するビット。
SP3	X = 37220, Y = -69609	楕円形	U字状	41	30	24	
SP4	X = 37222, Y = -69610	円形	弧状	46	41	10	
SP5	X = 37220, Y = -69604 ~ -69605	楕円形	弧状	49	29	8	
SP6	X = 37221 ~ 37222, Y = -69609	楕円形	平円形	41	37	35	
SP7	X = 37219, Y = -69615	楕円形	U字状	24	18	15	SD1を切る。
SP8	X = 37237, Y = -69602 ~ -69603	円形	台形状	41	37	24	
SP9	X = 37235, Y = -69606 ~ -69607	円形	平円状	29	27	11	
SP10	X = 37235, Y = -69607 ~ -69608	楕円形	弧状	47	38	12	
SP11	X = 37236 ~ 37237, Y = -69606 ~ -69607	円形	弧状	71	68	13	
SP12	X = 37244, Y = -69618 ~ -69619	楕円形	弧状	39	49	6	
SP13	X = 37241 ~ 37242, Y = -69609 ~ -69610	円形	弧状	82	77	10	
SP14	X = 37222, Y = -69622	不整形	U字状	20	17	19	SB1を構成するビット。
SP15	X = 37222, Y = -69620	長方形	U字状	22	16	23	SB1を構成するビット。
SP16	X = 37242, Y = -69602	楕円形	V字状	83	43	41	
SP17	X = 37243 ~ 37244, Y = -69604 ~ -69605	円形	弧状	68	63	8	
SP18	X = 37231, Y = -69617 ~ -69618	楕円形	平円状	77	41	31	
SP19	X = 37258, Y = -69617	楕円形	U字状	29	24	23	
SP20	X = 37261, Y = -69615	円形	台形状	28	27	22	
SP21	X = 37262, Y = -69614 ~ -69615	楕円形	V字状	51	30	20	
SP22	X = 37259 ~ 37260, Y = -69614	長方形	台形状	44	28	18	
SP23	X = 37259, Y = -69615	円形	U字状	25	22	24	
SP24	X = 37259, Y = -69615 ~ -69616	不整形	弧状	100	73	7	
SP25	X = 37263, Y = -69618 ~ -69619	円形	筒状	66	60	44	
SP26	X = 37265, Y = -69618	円形	U字状	42	41	32	
SP27	X = 37267 ~ 37268, Y = -69618 ~ -69619	円形	台形状	79	66	23	
SP28	X = 37269, Y = -69618 ~ -69619	円形	U字状	38	33	30	
SP29	X = 37272, Y = -69619	楕円形	台形状	26	20	10	
SP30	X = 37274 ~ 37275, Y = -69619	楕円形	台形状	27	21	10	
SP31	X = 37274, Y = -69620	円形	台形状	23	21	14	
SP32	X = 37317, Y = -69599	方形	U字状	34	28	23	
SP33	X = 37296, Y = -69614 ~ -69615	円形	U字状	24	22	21	
SP34	X = 37264, Y = -69618	不整形	台形状	22	21	11	
SP35	X = 37269 ~ 37270, Y = -69615	円形	U字状	22	21	21	

第8表 遺構一覽表(2)

番号	位置	平 状	断 状	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備 考
SP36	X = 37251 ~ 37252, Y = -69617	円形	壺状	20	17	19	
SP37	X = 37277 ~ 37278, Y = -69602	楕円形	壺状	39	28	7	
SP38	X = 37279, Y = -69602	楕円形	U字状	26	18	15	
SP39	X = 37285, Y = -69622	楕円形	U字状	27	22	11	
SP40	X = 37287, Y = -69620	楕円形	半円状	30	24	15	
SP41	X = 37303 ~ 37304, Y = -69610	楕円形	壺状	65	32	18	
SP42	X = 37323 ~ 37324, Y = -69598	円形	半円状	39	38	24	
SP43	X = 37314 ~ 37315, Y = -69599	円形	半円状	39	34	14	
SP44	X = 37314, Y = -69598	円形	U字状	40	35	25	
SP45	X = 37317, Y = -69599 ~ -69609	楕円形	U字状	29	23	19	
SP46	X = 37319, Y = -69607	楕円形	漏斗状	45	34	21	
SP47	X = 37317 ~ 37318, Y = -69606	円形	壺状	46	40	17	
SP48	X = 37317 ~ 37318, Y = -69602 ~ -69604	楕円形	漏斗状	66	50	53	
SP49	X = 37321 ~ 37322, Y = -69607 ~ -69608	円形	半円状	43	40	15	
SP50	X = 37312, Y = -69607 ~ -69608	円形	半円状	30	28	21	
SP51	X = 37315, Y = -69608	円形	半円状	23	22	17	
SP52	X = 37320 ~ 37321, Y = -69600 ~ -69601	楕円形	壺状	66	48	12	
SP53	X = 37324, Y = -69603 ~ -69604	円形	台形状	34	32	15	
SP54	X = 37319, Y = -69612	円形	半円状	27	23	11	
SP55	X = 37320, Y = -69608 ~ -69609	円形	半円状	32	30	27	
SP56	X = 37311, Y = -69601	円形	半円状	40	37	31	
SP57	X = 37313, Y = -69609	円形	半円状	17	15	19	
SP58	X = 37315 ~ 37316, Y = -69611	円形	U字状	13	11	16	
SP59	X = 37317, Y = -69614	楕円形	U字状	20	13	29	
SP60	X = 37321, Y = -69614	楕円形	半円状	22	18	13	
SP61	X = 37321, Y = -69615	円形	半円状	23	22	18	
SP62	X = 37327, Y = -69609	楕円形	U字状	36	18	42	
SP63	X = 37328 ~ 37327, Y = -69610	楕円形	半円状	33	20	15	
SP64	X = 37324, Y = -69607	円形	半円状	31	26	24	
SP65	X = 37315 ~ 37316, Y = -69615	円形	U字状	22	21	20	
SP66	X = 37318, Y = -69615	楕円形	半円状	34	28	17	
SP67	X = 37321, Y = -69616 ~ -69617	円形	半円状	32	28	15	
SP68	X = 37322, Y = -69616	円形	半円状	39	35	13	
SP69	X = 37322, Y = -69617	円形	壺状	25	23	19	
SP70	X = 37322 ~ 37323, Y = -69615	楕円形	半円状	56	40	11	
SP71	X = 37322, Y = -69613	円形	漏斗状	30	27	16	
SP72	X = 37320, Y = -69611	円形	半円状	43	36	26	
SP73	X = 37324, Y = -69611	円形	半円状	25	25	11	
SP74	X = 37324, Y = -69611	円形	半円状	33	30	8	
SP75	X = 37321 ~ 37322, Y = -69611	楕円形	壺状	39	30	14	
SP76	X = 37321 ~ 37322, Y = -69609 ~ -69610	円形	半円状	35	32	24	
SP77	X = 37321 ~ 37322, Y = -69609	円形	漏斗状	41	40	31	
SP78	X = 37323 ~ 37324, Y = -69615 ~ -69616	円形	半円状	30	28	15	
SP79	X = 37324, Y = -69615	円形	半円状	28	25	14	
SP80	X = 37323, Y = -69614	円形	半円状	22	20	11	
SP81	X = 37323, Y = -69613	円形	半円状	26	23	19	
SP82	X = 37322 ~ 37323, Y = -69609	楕円形	半円状	25	20	15	
SP83	X = 37328, Y = -69610	楕円形	半円状	38	29	18	
SP84	X = 37320, Y = -69602	円形	半円状	33	28	12	
SP85	X = 37322, Y = -69614 ~ -69615	円形	半円状	33	32	16	
SP86	X = 37322, Y = -69611	楕円形	半円状	42	32	16	
SP87	X = 37318, Y = -69619 ~ -69620	円形	壺状	42	42	9	
SP88	X = 37318, Y = -69619 ~ -69620	円形	半円状	48	43	22	
SP89	X = 37323, Y = -69609	楕円形	半円状	22	18	20	
SP90	X = 37322, Y = -69614	円形	半円状	30	28	16	
SP91	X = 37317, Y = -69605	楕円形	漏斗状	20	16	20	
SP92	X = 37320, Y = -69605 ~ -69606	楕円形	漏斗状	32	22	16	
SP93	X = 37314, Y = -69605	円形	U字状	26	25	23	
SP94	X = 37314, Y = -69609	楕円形	半円状	26	21	14	
SP95	X = 37318, Y = -69607	円形	U字状	23	22	28	
SP96	X = 37322, Y = -69607	円形	台形状	30	26	12	
SP97	X = 37323, Y = -69606	円形	半円状	28	27	10	
SP98	X = 37323 ~ 37324, Y = -69604 ~ -69605	円形	台形状	34	29	15	
SP99	X = 37323, Y = -69618	円形	半円状	22	20	9	
SP100	X = 37306, Y = -69604	楕円形	U字状	30	17	68	

VI. まとめ

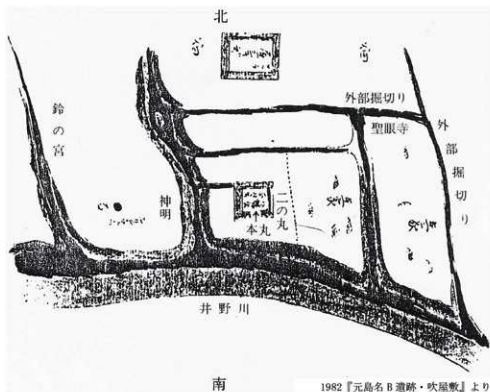
本遺跡では、掘立柱建物跡1棟、溝跡9条、土坑22基、ピット96基を検出した。本章では、特徴的な遺構や遺物、周辺遺構との関連について論じる。

古代以前

今回の調査では、加曾利E式の深鉢と考えられる縄文土器片1点が出土しており、元島名遺跡の調査でも、土坑から後期の深鉢が出土している。これは周辺での縄文時代の活動を示すものであるが、過去の調査では、当該期に属する検出された遺構が少なく不明瞭である。本遺跡では、古墳時代後期の鬼高式の高坏、坏が出土しているが、遺構外からの出土であり、詳細は不明であるが、隣接する鈴ノ宮遺跡の調査でも鬼高式土器が確認されており、本遺構との时期的な関連性を示す可能性がある。

調査区の北側約100mの位置にある元島名中子遺跡では、As-B下の水田が調査されており、また調査区から300mの位置にある元島名瓦井遺跡でもAs-B下の水田が確認されている。この遺跡ではブランド・オパールによる分析結果により、検出した水田遺構以前から当地が水田として利用されていた痕跡が確認されている。

現在では水路としてその面影を留めるのみであるが西沢川と鈴ノ宮遺跡の間には、井野川の支流が流れていたこと、また、元島名中子遺跡、元島名瓦井遺跡が井野川によって形成された段丘上に位置することから井野川から水を供給していたとは考えがたいことから、古代にも井野川の支流が存在し、そこから元島名中子、元島名瓦井遺跡に水を供給していた可能性がある。鈴ノ宮遺跡では10世紀後半から11世紀の構築だとされる住居址が98基確認されているが、今回の調査では住居址の検出には至らなかったが上述の河川によって生活域と農地が区画されていたとも考えられる。元島名瓦井



第18図 大河内家文書 桜屋敷絵図

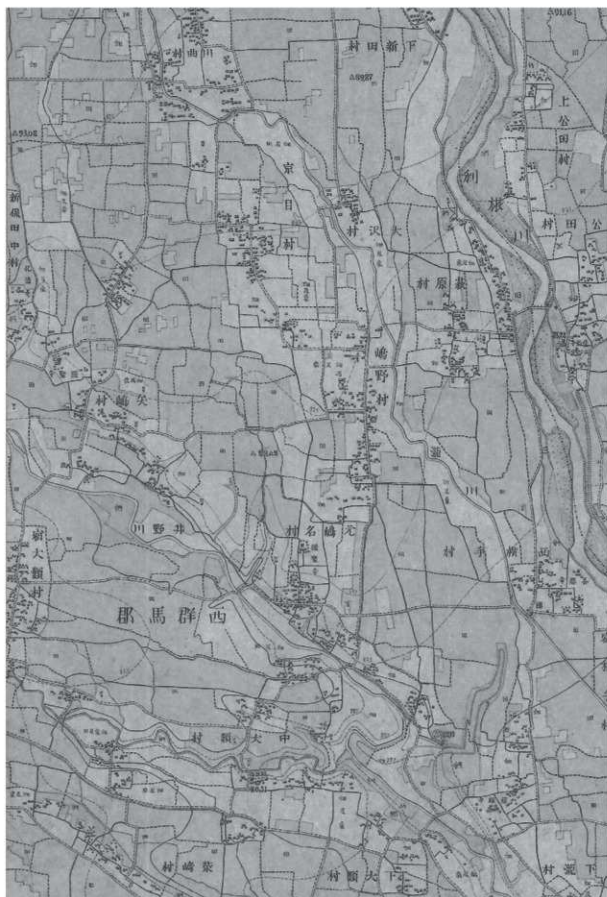
遺跡、元島中子遺跡ではAs-B下の水田が調査されており、鈴ノ宮遺跡で活動していた集団が本遺跡も含め周辺一帯を農地として利用していた可能性も考えられるが、今回の調査ではその痕跡は確認できなかった。

元島名城との関連性

本遺跡の調査では中世の遺構や遺物が最も多く発見されており、本遺跡は主に中世を中心に機能していたと考えられる。SK15からは永楽通寶2点が出土した。永楽通寶の初鑄は永楽6年(1408年)とされるが、室町時代を通じて私鑄銭が数多く作られており、SK15出土の永楽通寶も私鑄銭だと考えられることから15～16世紀の遺構と考えられる。またSD7から播鉢が出土している。上野国での播鉢の出現は15世紀中頃とされ、初期は瓦質のものが主流を占め、16世紀になると土師質のものが主流となるとされる。(浅野 1991) この播鉢も土師質であることから16世紀のものと推定される。また高崎市史(星野 1996)によると播鉢の出土は大部分が城址とその関連遺構であるとされ、この播鉢も元島名城との関連を示す遺物といえるかもしれない。SK20からはカワラケが1点、出土している。カワラケは口径11.6cm、器高2.8cm、底径6.6cmを測る。口径は推定径であるが、このカワラケを高崎市史の土師質土器の編年(志田 1996)より考えると、口径と器高の比率が約4.14、底形と器高の比率が約2.35であることと、体部がやや反し厚手となることからVI期に相当するものと



1996『新編高崎市史 資料編3 中世1』より
第19図 元島名城推定図



(財)日本地図センター複製図より、原図は国土地理院所蔵
 第20図 群馬縣上野西群馬萩原村 二万分一迅速測図第十巻号之三

推定できる。実年代としては15世紀末から16世紀とされる。

本遺跡の東には元島名城、桜屋敷が隣接し、元島名城は南を井野川、西は西沢川を自然の堀として利用していたと推定されるが、西沢川はほ場整備により埋没しており現在は確認できない。

現在知られている元島名城は、永禄13年(1570)に長井政実が元島名に居城した以後の姿であるが、それ以前から城館が存在したとされ、応永年間(1394～1427)島名伊豆守が桜屋敷を築いたとされる。元島名遺跡の発掘調査では桜屋敷と推定される建物跡が検出された。桜屋敷跡と推定される調査地点の出土遺物の年代は14世紀～15世紀と元島名城本丸調査地点より古い年代を示し、元島名城に先立つ屋敷であることが確認された。大河内家文書には桜屋敷の絵図(第18図)が含まれており、絵図上には「サクラ屋シキト云」との記載が確認できる。外堀の形状や井野川の位置からも、元島名城周辺を描いた絵図に相違ないとされる。この絵図に眼聖寺が描かれていないが、眼聖寺は京ヶ島村誌(京ヶ島村誌編纂委員会編 1961)によると、寛永年間(1624～1645)に僧情意が開基創建したとされる。上記のようにこの絵図は眼聖寺が描かれていないこと、また本丸などの元島名城の施設も描かれていないことから、後北条氏の侵攻を受け廃城になったとされる天正10年(1582)から寛永年間までに描かれたものであると推定される。

本遺跡は、山崎一(山崎1971)が推定した元島名城の城域(第19図)からは外れるが、1978年の元島名遺跡での調査では、元島名城推定範囲の西側でも元島名城に先立つ屋敷とされる建物や堀が確認されていることから、本遺跡も元島名城に関連する遺構である可能性は十分にありうる。また、本遺跡出土の遺物は16世紀までに概ね収まるものであり、元島名城と同時期に機能していたと考えられる。

しかしながら、本調査では明確な関連性を確認するまでには至らなかったもので、その可能性を指摘するに留め、今後の調査の発展に期待するとする。

近世以降

桜屋敷の絵図を見ると元島名城が廃城となつてからは、少数の在家と書かれた住居を除くとほとんど周辺一帯は畑として利用されていたことが確認できる。また、明治18年(1885)に作成された群馬懸上野国西群荻原村の迅速測図(第20図)でも、周辺一帯が田畑として利用されていたことが確認できる。本遺跡での近世以降の活動を示すものとしては、小片のため図示できなかったが表土から近世のものと推定される磁器片が少数出土しているのみであり、明確に近世に帰属すると判断できる遺構が確認できなかったことや、上記の桜屋敷の絵図、迅速測図から、近世から現在に至るまで農地として利用されていたと考えられる。

引用・参考文献

- 浅野晴樹 1991「東国における中世在地系土器について—主に関東を中心として—」
『国立歴史民俗博物館研究報告第31集』p55-126 国立歴史民俗博物館
- 飯塚恵子・他 1978『鈴ノ宮遺跡』高崎市教育委員会
- 飯塚恵子・他 1981『元島名将軍塚古墳』高崎市教育委員会
- 五十嵐至・他 1979『元島名遺跡』高崎市教育委員会
- 大江正行・他 1982『元島名B・吹屋遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 大越直樹 1994『矢島町葉師遺跡』高崎市遺跡調査会
- 京ヶ島村誌編纂委員会編 1961『京ヶ島村誌』京ヶ島村
- 小宮山達雄・他 2017『元島名旭遺跡2』高崎市教育委員会
- 志田登 1996「第二部 考古資料 三(五) 土師質土器皿」『新編高崎市史 資料編3 中世1』
p427-430 高崎市教育委員会
- 高崎市歴史民俗調査員会 1987『高崎史料集 大河内家文書 無銘書2』高崎史教育委員会
- 高崎市史編さん委員会 2003『新編高崎市史 通史編1』高崎市教育委員会
- 高崎市史編さん委員会 2000『新編高崎市史 通史編2』高崎市教育委員会
- 高崎市史編さん委員会 1999『新編高崎市史 資料編1』高崎市教育委員会
- 高崎市史編さん委員会 2000『新編高崎市史 資料編2』高崎市教育委員会
- 高崎市史編さん委員会 1996『新編高崎市史 資料編3』高崎市教育委員会
- 滝沢匡・他 1999『高崎市内遺跡埋蔵文化財 緊急発掘調査報告書13』高崎市教育委員会
- 長井正欣・他 1995『元島名瓦井遺跡』高崎市遺跡調査会
- 長谷川一郎・他 2001『元総社蒼海遺跡群 元総社小見内Ⅲ遺跡』前橋埋蔵文化財発掘調査団
- 星野守弘 1996「第二部 考古資料 三(四) 軟質陶器」『新編高崎市史 資料編3 中世1』
p421-426 高崎市教育委員会
- 山田誠司 2015『荻原・沖中遺跡8』高崎市教育委員会
- 山崎一 1971『群馬県古城塁址の研究 上巻』群馬県文化事業振興会
- 和久拓照・田口一郎 2014『宿大類村西遺跡2』高崎市教育委員会

写 真 图 版



調査区全景 東から



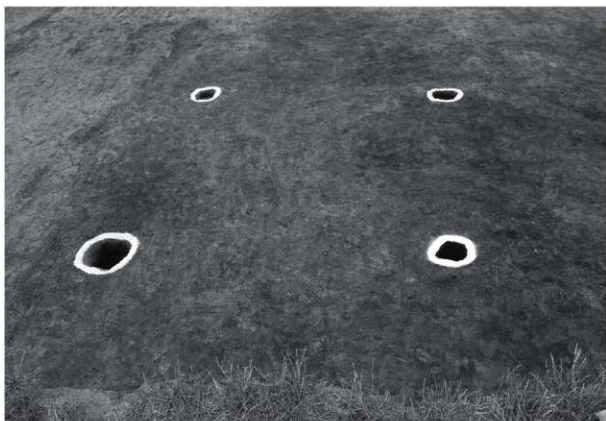
調査区全景 俯瞰



1974年撮影 本遺跡周辺空中写真 (国土地理院撮影)



1986年撮影 本遺跡周辺空中写真 (国土地理院撮影)



1号掘立柱建物跡完掘 西から



1号ビット断面 南から



2号ビット断面 南から



14号ビット断面 南から



15号ビット断面 南から

図版 4



1号溝跡・7号ピット断面 東から



2号溝跡断面 東から



3号溝跡断面 南から



4号溝跡断面 東から



5号溝跡断面 東から



6号溝跡断面 北西から



7号溝跡断面 東から



7号・9号溝跡完掘 西から



8号溝跡断面 北から



8号溝跡完掘 南から



9号溝跡断面 南東から



5号土坑石出土状況1 南から



5号土坑石出土状況2 南から



5号土坑石出土状況3 南から



5号土坑断面 南から



5号土坑完掘 南から

図版 6



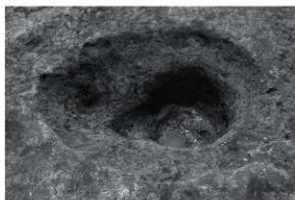
8号土坑断面 南から



8号土坑完掘 東から



11号土坑断面 南から



11号土坑完掘 北から



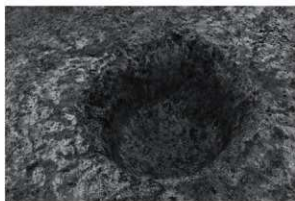
13号土坑断面 南から



13号土坑完掘 南から



14号土坑石出土状況 南から



14号土坑完掘 南から



15号土坑断面・遺物出土状況 東から



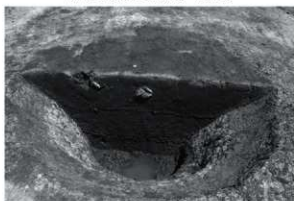
15号土坑永楽通寶出土状況 東から



15号土坑骨出土状況 南から



15号土坑完掘 南から



20号土坑断面 南から



20号土坑完掘 南から



21号土坑断面 南から



21号土坑完掘 南から



21号土坑木器出土状況



21号土坑木器出土状況 近景



22号土坑断面 南から



22号土坑完掘 南から



3号ビット断面 南から



3号ビット完掘 南から



8号ビット断面 南から



8号ビット完掘 南から



33号ビット断面 南から



33号ビット完掘 南から



72号ビット石出土状況 南から



75号ビット石出土状況 南から



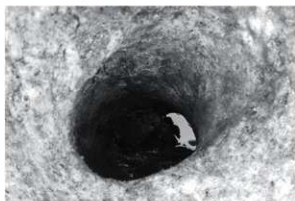
82号ビット石出土状況 南から



83号ビット石出土状況 南から



95号ビット断面 南から



100号ビット柱根出土状況 南から



1

SD5 出土遺物



2

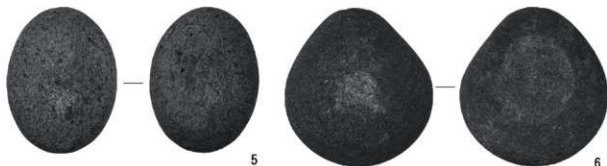
3

SD7 出土遺物



4

SK3 出土遺物



5

6

SK5 出土遺物

0 (1:3) 10cm



7

8

SK15 出土遺物

0 (1:1) 2cm



9



10



11



SK20 出土遺物



14

SP3 出土遺物



15



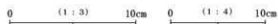
SP22 出土遺物



12



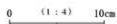
13



SK21 出土遺物

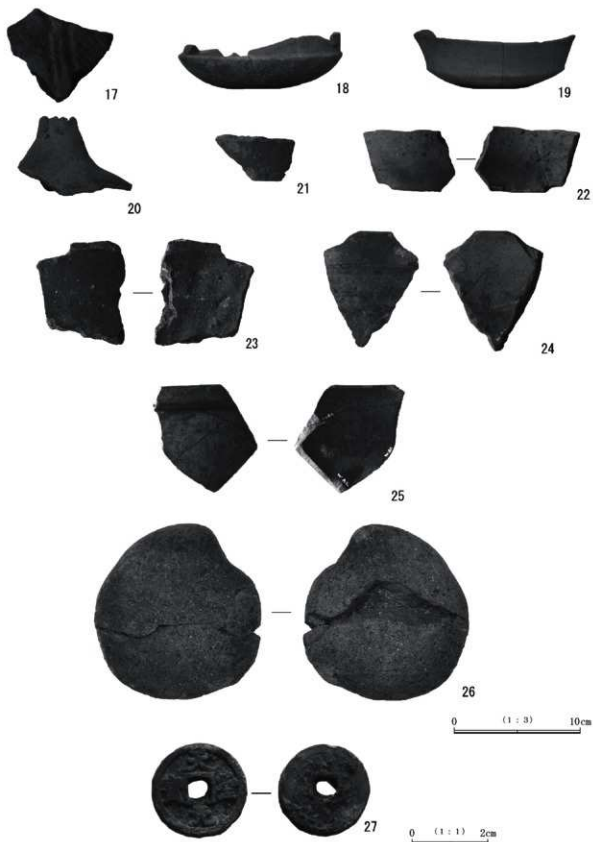


16



SP45 出土遺物

図版 12



遺構外出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	もとしまなかごいせき
書 名	元鳥名中子遺跡
副 書 名	高崎市元鳥名町地区における荷捌き所及び事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻 次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第417集
編 著 者 名	高崎市教育委員会文化財保護課、秋山 真好・高尾 将矢（株式会社ノガミ）
編 集 機 関	株式会社 ノガミ
所 在 地	〒950-1136 新潟県新潟市江南区菅川甲 527-3
発行年月日	西暦2018年（平成30年）9月10日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間 (発掘調査)	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
元鳥名中子 遺跡	群馬県高崎市元鳥名町 中子 1229 番地	102024	741	36° 20′ 01″	139° 03′ 28″	20180402 ～ 20180531	3176 m ²	荷捌き所及び 事務所建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元鳥名中子遺跡	散布地	古代以前		縄文土器、土師器	遺構外から縄文土器の深鉢が1点、古墳時代後期の甕高式土器2点出土している。また、土師器片がビットから出土したが、後世の耕作による混入と考えられる。
	(その他) 包含地	中世以降	掘立柱建物跡 溝跡 土坑 ビット	土師質土器、瓦質土器、 陶磁器、石製品、木製品、 銭貨	元鳥名城に関連する明確な遺構は検出できなかったが、同時期に帰属する遺物が出土した。 近世以降は農地として利用された。

高崎市文化財調査報告書 第417集

元島名中子遺跡

印刷日 平成30年9月7日

発行日 平成30年9月10日

編集 株式会社ノガミ
発行 高崎市教育委員会
新潟運輸株式会社
株式会社ノガミ
印刷 株式会社ライフ